

効果的な情報還元の推進に向けた 保健情報の活用に関する調査報告書

岩手県環境保健研究センター
令和6年9月



1 目的

- 関係機関における保健情報※の活用状況及び課題、ニーズ等について把握することにより、今後の情報還元のあり方について示唆を得る。
- 関係機関におけるデータ活用の実態に即した、より効果的な情報還元を進めるための基礎資料とする。

2 実施主体

岩手県環境保健研究センター（以下「センター」という。）

3 対象機関

県、市町村、医療保険者、教育関係機関、小・中・高等学校、大学等 433機関

4 調査方法

対象機関へ調査票（Microsoft Excel）を配付し、メール送信により回答を得た。

5 調査期間

令和5年7月3日～令和5年7月28日

6 調査内容

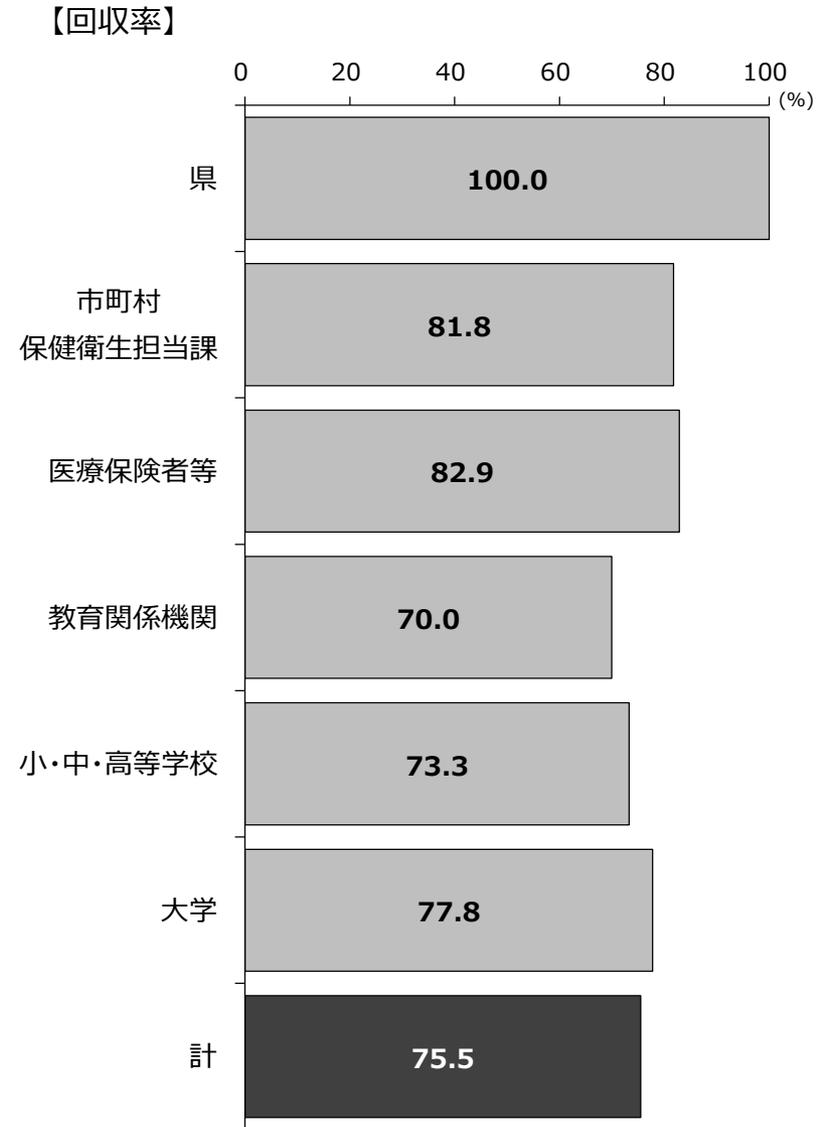
調査時現在及びコロナ禍前の平常時の状況について

※保健情報：センター及び保健所が提供する人口動態や健診・生活習慣等の各種健康関連情報を指す。
具体的には、センターがホームページで提供するもの、関係機関からの照会によりセンター及び保健所が提供する情報等がある。



7 対象機関の属性・回収率

| 対象区分 | 対象機関数 | 回答数 | 回収率 (%) |
|-------------------------------------|------------|------------|--------------|
| 県 | 16 | 16 | 100.0 |
| (再掲) 本庁関係室課 | 7 | 7 | 100.0 |
| (再掲) 保健所 | 9 | 9 | 100.0 |
| 市町村保健衛生担当課 | 33 | 27 | 81.8 |
| (再掲) 市 | 14 | 12 | 85.7 |
| (再掲) 町・村 | 19 | 15 | 78.9 |
| 医療保険者等 | 35 | 29 | 82.9 |
| (再掲) 市町村国保担当課 | 33 | 27 | 81.8 |
| (再掲) 岩手県国民健康保険団体連合会 全国健康保険協会岩手支部 | 2 | 2 | 100.0 |
| 教育関係機関 | 40 | 28 | 70.0 |
| (再掲) 県教育委員会事務局・教育事務所 | 7 | 5 | 71.4 |
| (再掲) 市町村教育委員会 | 33 | 23 | 69.7 |
| 小・中・高等学校※1 | 300 | 220 | 73.3 |
| (再掲) 小学校 | 165 | 114 | 69.1 |
| (再掲) 中学校 | 81 | 64 | 79.0 |
| (再掲) 高等学校 | 54 | 42 | 77.8 |
| 大学※2 | 9 | 7 | 77.8 |
| (再掲) 保健師養成施設 | 3 | 3 | 100.0 |
| (再掲) 管理栄養士養成施設 | 6 | 4 | 66.7 |
| 計 | 433 | 327 | 75.5 |



※1 令和5年度生活習慣病予防支援システムに伴う生活習慣アンケート調査協力校

※2 県内保健所において臨地実習を行う、岩手県、宮城県、青森県内の保健師・管理栄養士養成施設

結果の概要

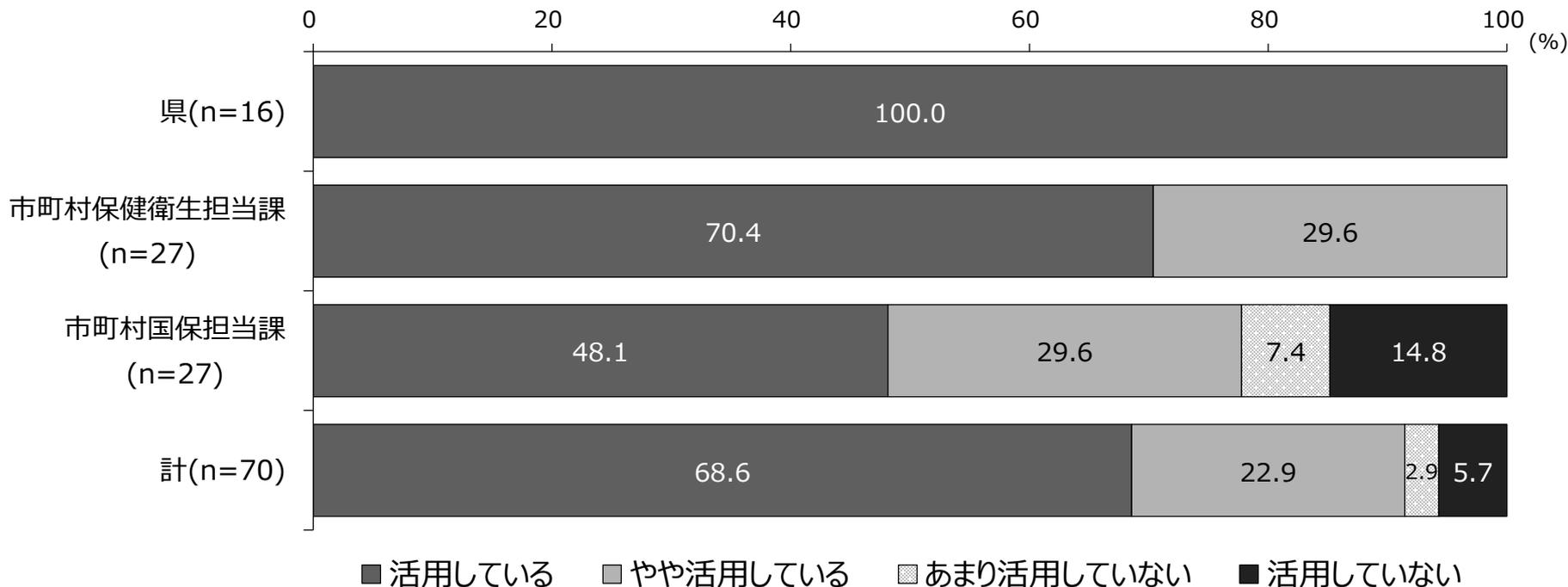


1 各種施策等を実施する際の統計データ※の活用

【集計対象】 県、市町村保健衛生担当課・国保担当課

- 各種施策や事業の立案・評価等への統計データの活用について、全体では「活用している」68.6%、「やや活用している」22.9%で、合わせると91.4%であった。
- 全ての対象区分で「活用している」と回答した割合が最も高く、県では「活用している」が100.0%であった。

各種施策や事業の立案・評価等への統計データの活用



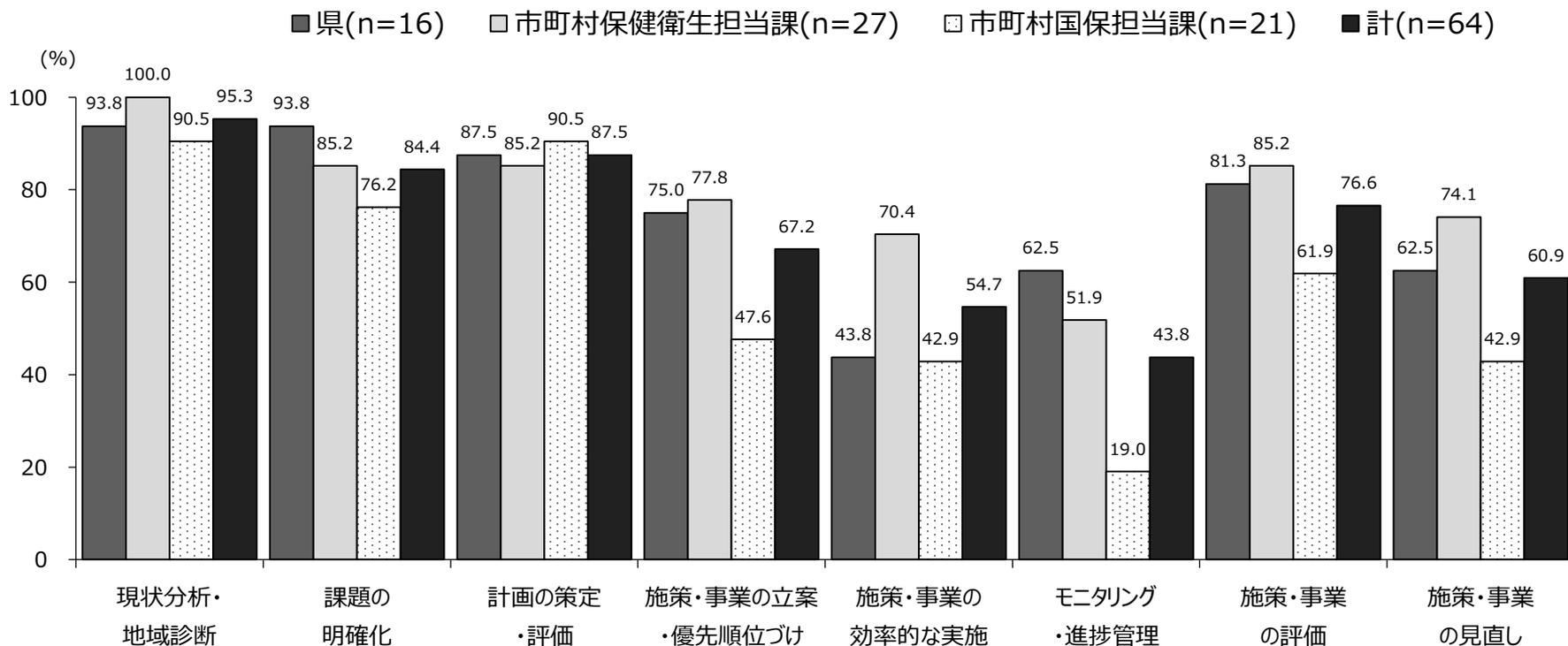
※統計データ：各関係機関が収集している情報や国、県、その他関連する機関・団体等が公表する情報を指す。

2 統計データを活用している目的①

【集計対象】 県、市町村保健衛生担当課・国保担当課

- 統計データを活用している目的は、全体では「現状分析・地域診断」が95.3%で最も高く、次いで「計画の策定・評価」87.5%、「課題の明確化」84.4%であった。
- 一方で、「モニタリング・進捗管理」43.8%、「施策・事業の効率的な実施」54.7%、「施策・事業の見直し」60.9%で、上記に比べて低く、全ての対象区分でほぼ同様の傾向がみられた。

統計データを活用している目的（複数回答）



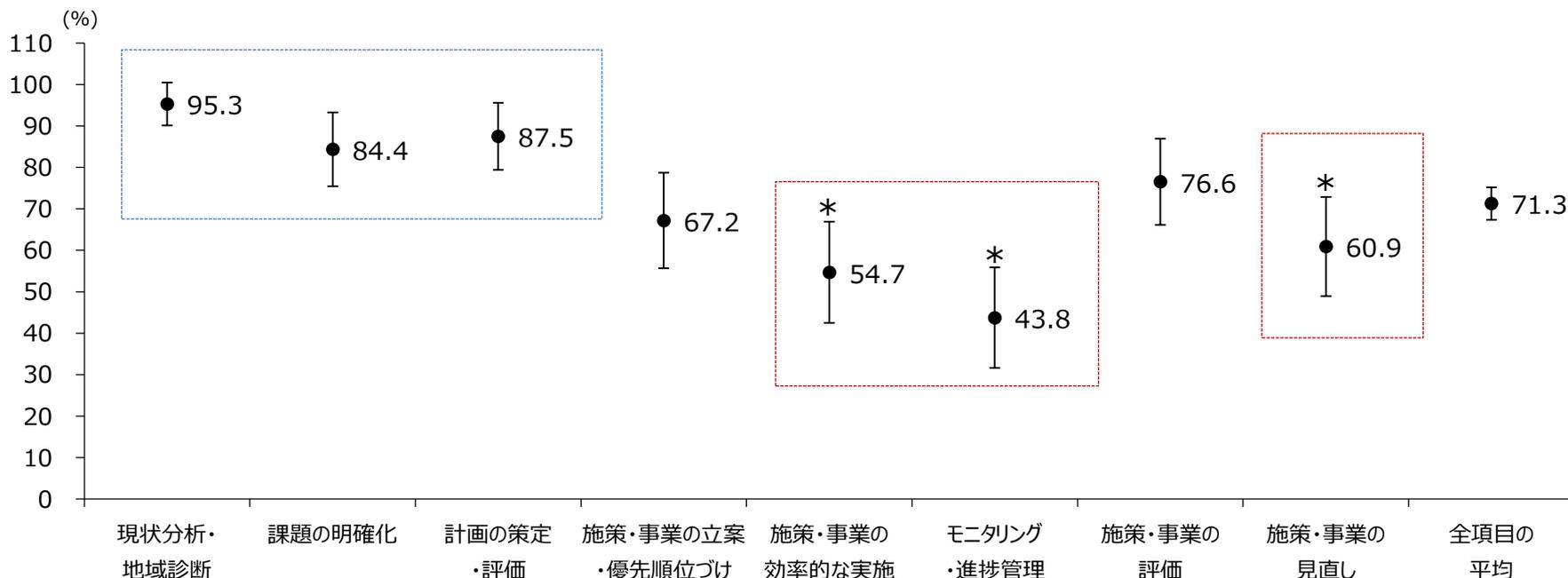
問1(1)：統計データを活用している目的として、あてはまる項目すべてに○を入力してください。
 (問1で「活用している」又は「やや活用している」と回答した所属が回答。)

2 統計データを活用している目的②

【集計対象】 県、市町村保健衛生担当課・国保担当課

● 統計データを活用している目的として、活用の割合が高い「現状分析・地域診断」、「課題の明確化」、「計画の策定・評価」に対して、「施策・事業の効率的な実施」、「モニタリング・進捗管理」、「施策・事業の見直し」は有意に低かった。

統計データを活用している目的



* : 活用している割合の高い「現状分析・地域診断」、「課題の明確化」、「計画の策定・評価」に比べて、有意に低いことを示す。
 ー : 95%信頼区間 (母比率の推定)

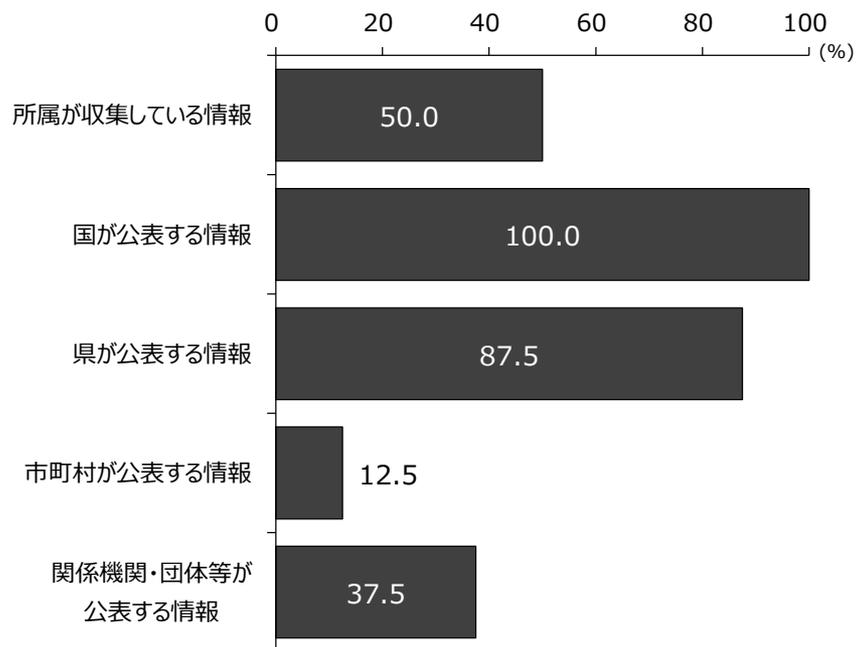
問1(1) : 統計データを活用している目的として、あてはまる項目すべてに○を入力してください。
 (問1で「活用している」又は「やや活用している」と回答した所属が回答。)

3 活用している統計データ① 【 県 】

- 活用している統計データは「国が公表する情報」100.0%、次いで「県が公表する情報」87.5%であった。
- 国が公表する情報は「人口動態統計」が最も多く、次いで「国民健康・栄養調査」であった。
県が公表する情報は「環境保健研究センターの保健情報」が最も多く、次いで「保健福祉年報」であった。

【県 (n=16)】

活用している統計データ (複数回答)



活用している主な統計データ名

| 区分 | 統計データ名 |
|-----------------|--|
| 所属が収集している情報 | ・研修等受講者数 (2) |
| 国が公表する情報 | ・人口動態統計 (11) ・国民健康・栄養調査 (5) ・NDBオープンデータ (4) ・学校保健統計 (4) |
| 県が公表する情報 | ・環境保健研究センターの保健情報 (8) ・保健福祉年報 (7) ・国保データベース (KDB) システム (4) |
| 市町村が公表する情報 | |
| 関係機関・団体等が公表する情報 | |

※回答が複数あった項目のうち、上位3つを記載。()は回答数。

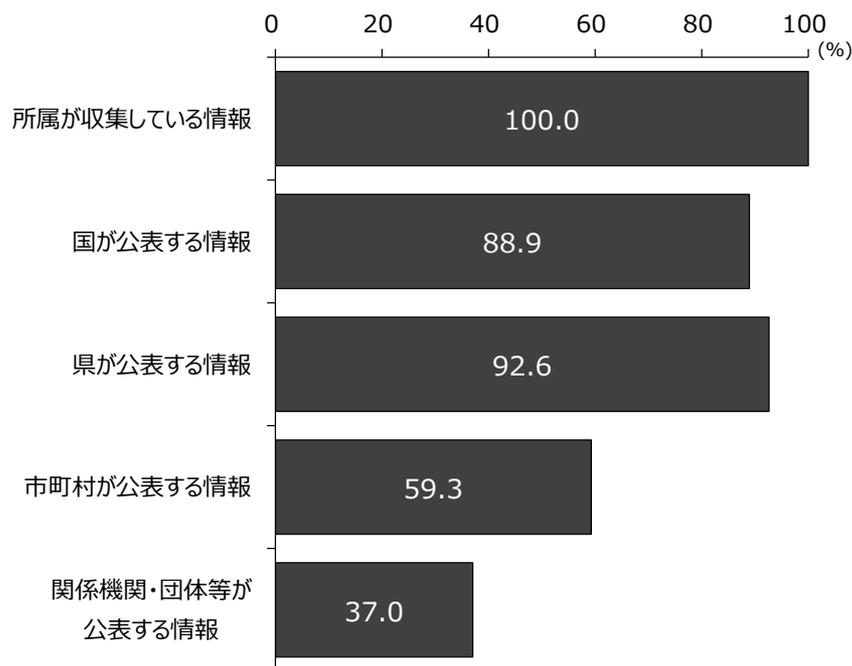
問1(2): 活用している統計データについて、あてはまる項目すべてに○を入力してください。
また、活用している主な統計データ名を入力してください。(問1で「活用している」又は「やや活用している」と回答した所属が回答。)

3 活用している統計データ② 【市町村保健衛生担当課】

- 活用している統計データは「所属が収集している情報」100.0%、次いで「県が公表する情報」92.6%、「国が公表する情報」88.9%であった。
- 所属が収集している情報の「国保データベース（KDB）システム」は、統計データを活用している27市町村のうち、25市町村から回答があった。多くの市町村では、国保担当課のほか、保健衛生担当課でも活用されていた。
- 県が公表する情報は「保健福祉年報」が最も多く、次いで「環境保健研究センターの保健情報」であった。

【市町村保健衛生担当課（n=27）】

活用している統計データ（複数回答）



活用している主な統計データ名

| 区分 | 統計データ名 |
|-----------------|--|
| 所属が収集している情報 | ・国保データベース（KDB）システム（25） |
| 国が公表する情報 | ・人口動態統計（8） ・国勢調査結果（3） ・警察庁自殺統計（3） ・厚生労働省自殺の統計（3） |
| 県が公表する情報 | ・保健福祉年報（16） ・環境保健研究センターの保健情報（7） ・人口動態統計（5） |
| 市町村が公表する情報 | ・市町村の統計（2） ・人口統計（住民基本台帳）（2） ・介護保険に関するデータ（2） ・保健統計、保健年報（2） |
| 関係機関・団体等が公表する情報 | ・地域自殺実態プロフィール（3） ・いわて国保の実態（2） |

※回答が複数あった項目のうち、上位3つを記載。（ ）は回答数。

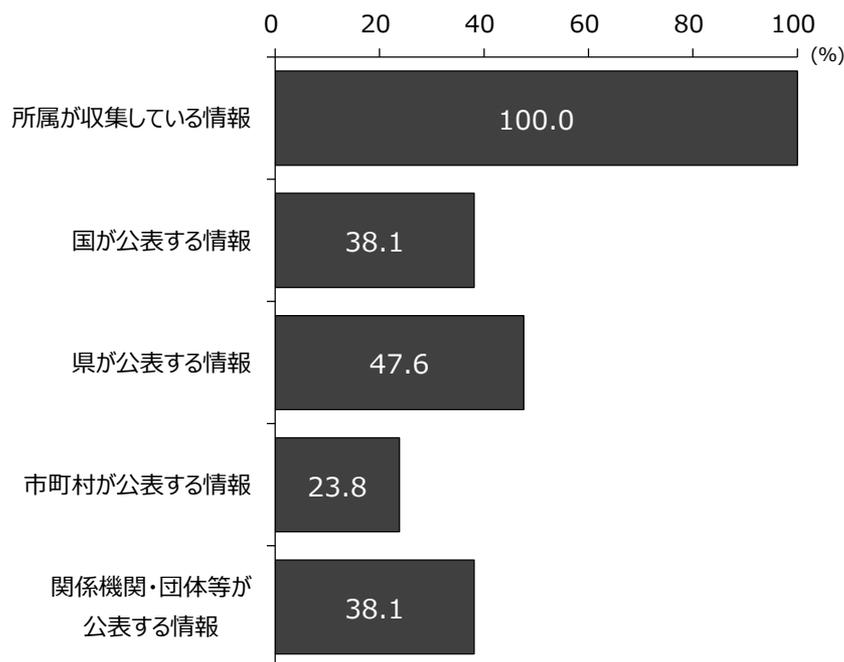
問1(2)：活用している統計データについて、あてはまる項目すべてに○を入力してください。
また、活用している主な統計データ名を入力してください。（問1で「活用している」又は「やや活用している」と回答した所属が回答。）

3 活用している統計データ③ 【市町村国保担当課】

- 活用している統計データは「所属が収集している情報」100.0%で、全ての市町村で活用されていた。次いで「県が公表する情報」47.6%であった。
- 所属が収集している情報の「国保データベース（KDB）システム」は、全ての市町村で活用されていた。
- 県が公表する情報は「データでみる健康課題」が最も多く、次いで「保健福祉年報」であった。

【市町村国保担当課（n=21）】

活用している統計データ（複数回答）



活用している主な統計データ名

| 区分 | 統計データ名 |
|-----------------|--|
| 所属が収集している情報 | ・国保データベース（KDB）システム（21） ・特定健診等データ管理システム（2） |
| 国が公表する情報 | ・人口動態統計（2） ・国勢調査（2） ・国民生活基礎調査（2） |
| 県が公表する情報 | ・データでみる健康課題（4） ・保健福祉年報（3） |
| 市町村が公表する情報 | ・市町村の統計（3） |
| 関係機関・団体等が公表する情報 | ・いわて国保の実態（4） |

※回答が複数あった項目のうち、上位3つを記載。（ ）は回答数。

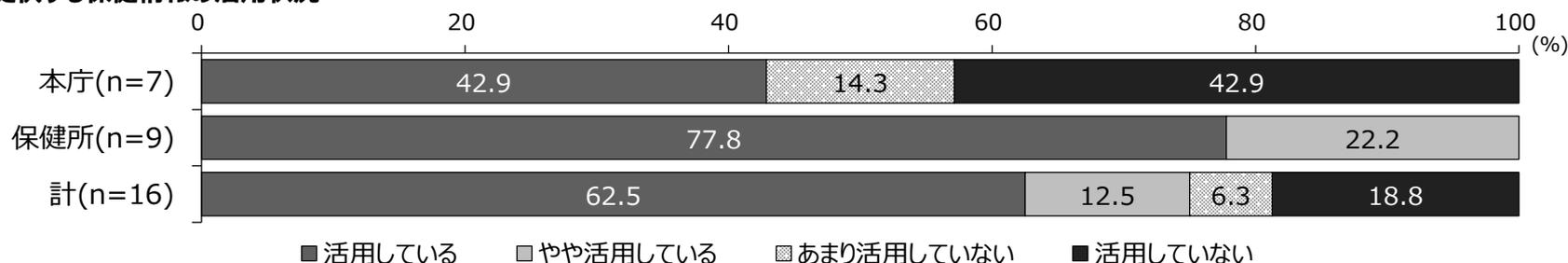
問1(2)：活用している統計データについて、あてはまる項目すべてに○を入力してください。
また、活用している主な統計データ名を入力してください。（問1で「活用している」又は「やや活用している」と回答した所属が回答。）

1 センターが提供する保健情報の活用

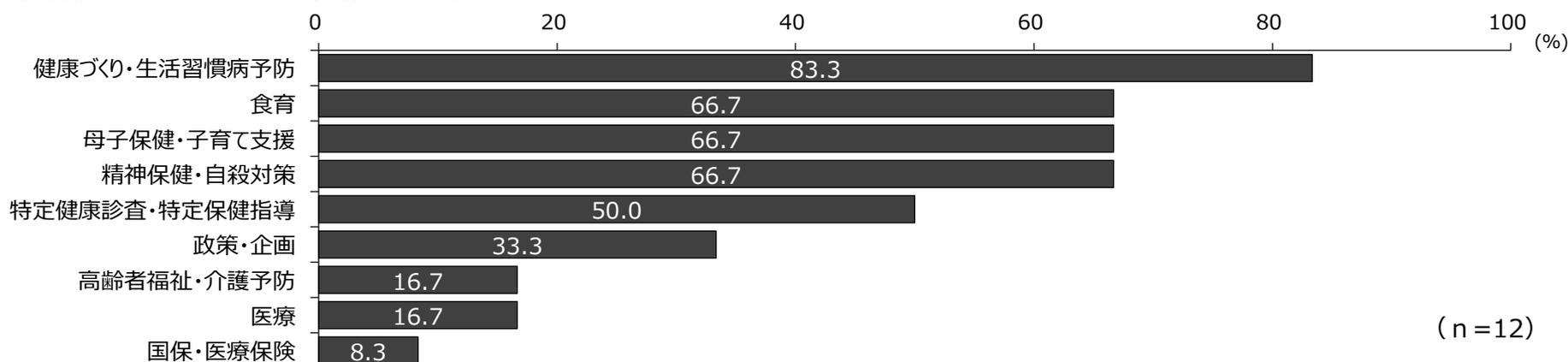
【集計対象】 県

- センターが提供する保健情報を活用している割合は、全体では「活用している」と「やや活用している」を合わせると75.0%（12所属）で、本庁42.9%（3所属）、保健所100.0%（9所属）であった。
- 保健情報を活用している所属のうち、保健情報を活用している分野は「健康づくり・生活習慣病予防」が83.3%（10所属）と最も高く、当該業務を所管する全ての所属で活用されていた。次いで「食育」、「母子保健・子育て支援」及び「精神保健・自殺対策」がそれぞれ66.7%（8所属）であった。

センターが提供する保健情報の活用状況



保健情報を活用している分野（複数回答）



問2-1：貴所属では、センターが提供する保健情報を活用していますか。

問2-1(1)：貴所属において、センターの保健情報を活用している分野として、あてはまる項目すべてに○を入力してください。

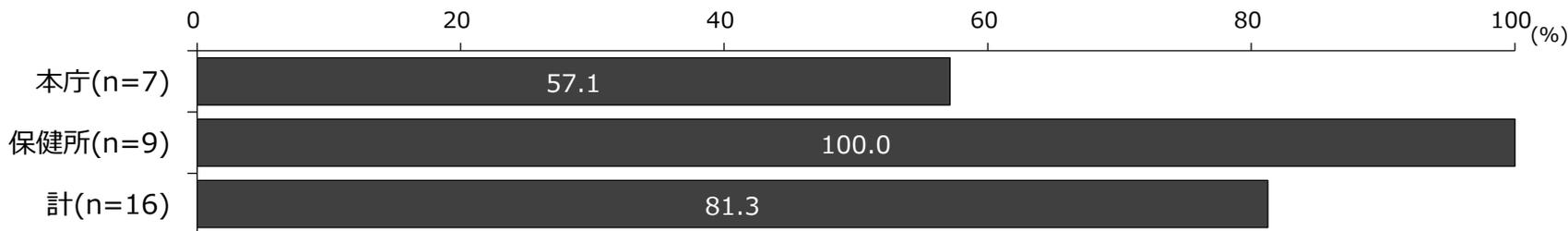
(問2で「活用している」又は「やや活用している」と回答した所属が回答。)

2 各種計画やモニタリング等の指標としての保健情報の活用

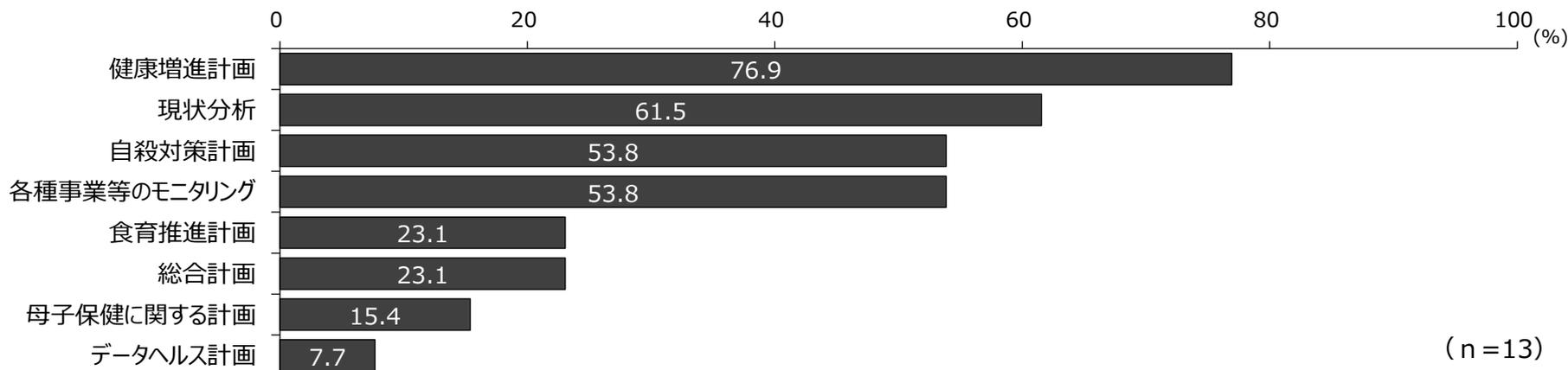
【集計対象】 県

- 各種計画やモニタリング、現状分析等の指標として保健情報を活用している割合は、全体で81.3%（13所属）で、本庁57.1%（4所属）、保健所100.0%（9所属）であった。
- 保健情報を指標として活用している計画等は「健康増進計画」76.9%（10所属）が最も高く、当該業務を所管する全ての所属で活用されていた。次いで「現状分析」61.5%（8所属）であった。

各種計画やモニタリング、現状分析等の指標として保健情報を活用している割合



保健情報を指標として活用している計画等（複数回答）



問2-2：センターが提供する保健情報について、貴所属において、各種計画やモニタリング、現状分析等の指標として活用している情報はありますか。
 問2-2(1)：指標として活用している計画等について、あてはまる項目すべてに○を入力してください。（問2-2で「ある」と回答した所属が回答。）

3 保健情報を活用している主な指標名

- 指標として、人口動態、妊婦、児童・生徒、成人の各領域の保健情報が活用されていた。

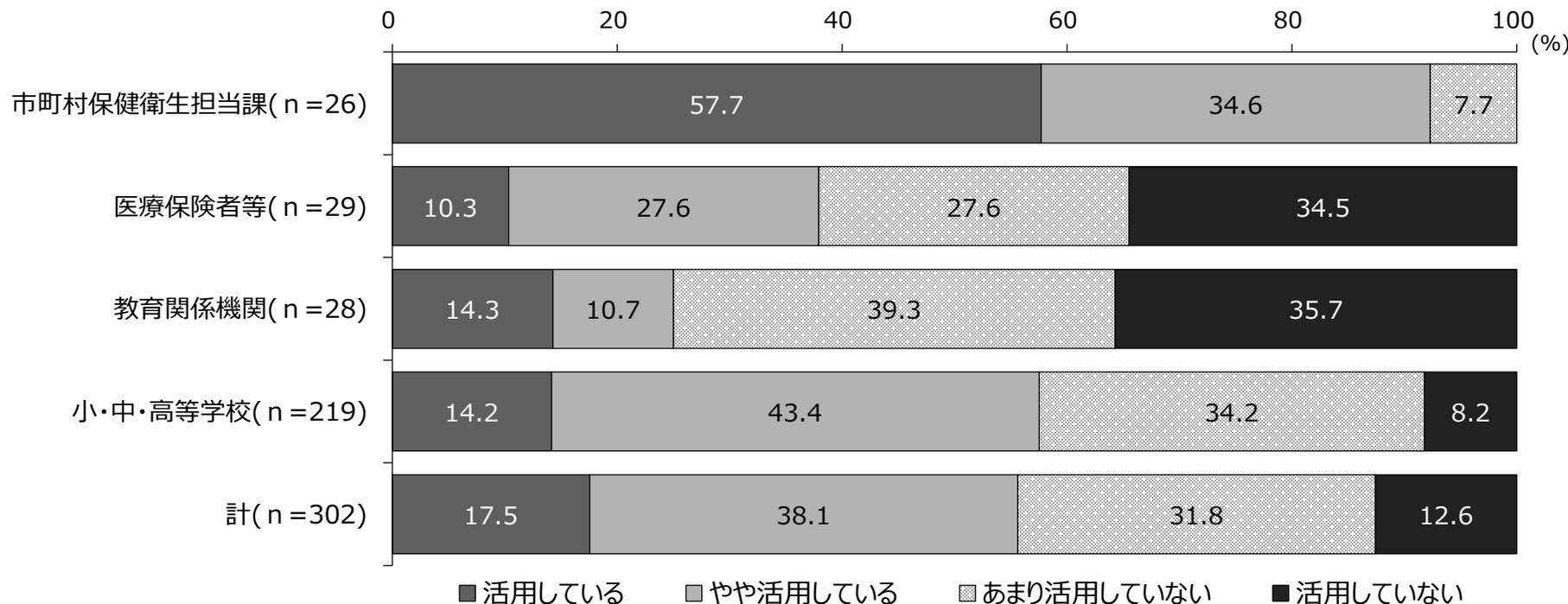
| 【県】 | 区分 | 指標名 |
|-----|-------|--|
| | 人口動態 | <ul style="list-style-type: none"> ・がんの年齢調整死亡率の低下（人口10万対）※65歳未満、75歳未満の年齢調整死亡率等も含む ・心疾患の年齢調整死亡率の低下（人口10万対）※65歳未満の年齢調整死亡率も含む ・脳血管疾患の年齢調整死亡率の低下（人口10万対）※65歳未満の年齢調整死亡率も含む ・自殺率の低下 ・周産期死亡率 |
| | 妊婦 | <ul style="list-style-type: none"> ・妊婦の喫煙 ・妊婦の飲酒 |
| | 児童・生徒 | <ul style="list-style-type: none"> ・朝食を毎日食べる子どもの割合の増加・朝食欠食率等 ・運動やスポーツを習慣的にしている子どもの割合 ・肥満傾向児の減少 ・間食の状況 ・偏食の状況 ・睡眠時間の状況 ・歯磨きの回数の状況 |
| | 成人 | <ul style="list-style-type: none"> ・喫煙の状況、喫煙者の割合 ・肥満者の割合、適正体重の者の割合 ・メタボリックシンドローム該当者・予備群割合 ・血圧高値・高血圧者の割合 ・血圧リスクのある者の割合 ・血糖リスクのある者・耐糖能異常の割合 ・脂質異常の割合 ・LDLコレステロールが160mg/dl以上の者の割合の低下 ・朝食欠食者の状況 ・運動習慣者・身体活動をしている者の割合 ・飲酒者・多量飲酒者の割合 ・睡眠による休養が十分にとれている者の割合 ・主な項目の標準化該当比・市町村別マップ |

1 センター及び保健所が提供する保健情報の活用

【集計対象】市町村保健衛生担当課、医療保険者等、教育関係機関、小・中・高等学校

- 全体では「やや活用している」が38.1%と最も高く、次いで「あまり活用していない」31.8%であった。また、「活用している」と「やや活用している」を合わせると55.6%であった。
- 「活用している」又は「やや活用している」割合は、市町村保健衛生担当課が92.3%と最も高く、次いで、小・中・高等学校57.5%、医療保険者等37.9%、教育関係機関25.0%であった。対象区分により活用状況に差がみられた。

センター及び保健所が提供する保健情報の活用状況

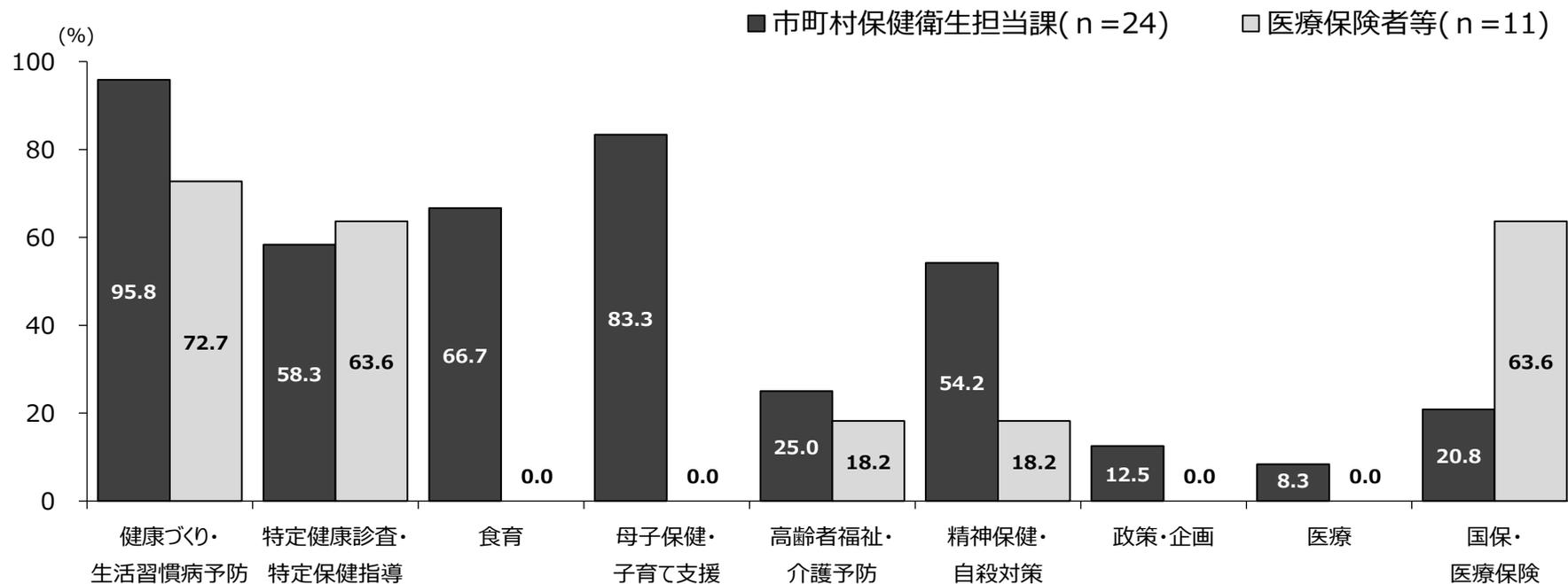


2 保健情報を活用している分野

[集計対象] 市町村保健衛生担当課、医療保険者等

- 保健情報を活用している機関のうち、保健情報を活用している分野は、市町村保健衛生担当課では「健康づくり・生活習慣病予防」が95.8%と最も高く、次いで「母子保健・子育て支援」83.3%、「食育」66.7%であった。
- 医療保険者等では、「健康づくり・生活習慣病予防」が72.7%と最も高く、次いで「特定健康診査・特定保健指導」及び「国保・医療保険」がそれぞれ63.6%であった。

保健情報を活用している分野（複数回答）



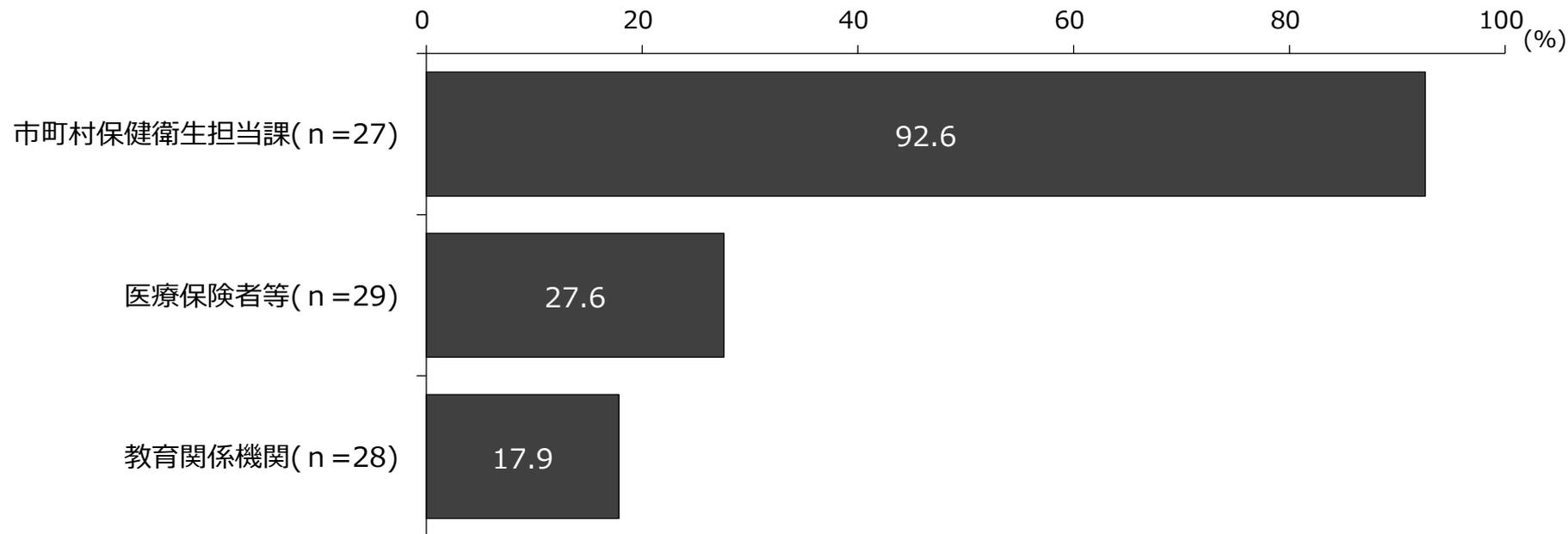
問3(1)：貴所属において、保健情報を活用している分野として、あてはまる項目すべてに○を入力してください。
 (問3で「活用している」又は「やや活用している」と回答した所属が回答。)

3 各種計画やモニタリング等の指標としての保健情報の活用

【集計対象】市町村保健衛生担当課、医療保険者等、教育関係機関

- 各種計画やモニタリング、現状分析等の指標として保健情報を活用している割合は、市町村保健衛生担当課が92.6%（25/27市町村）で、多くの市町村で活用されていた。
- また、医療保険者等は27.6%（8/29機関）、教育関係機関は17.9%（5/28機関）であった。
教育関係機関の内訳は、県教育委員会・教育事務所80.0%（4/5機関）、市町村教育委員会4.3%（1/23機関）であった。

各種計画やモニタリング、現状分析等の指標として保健情報を活用している割合



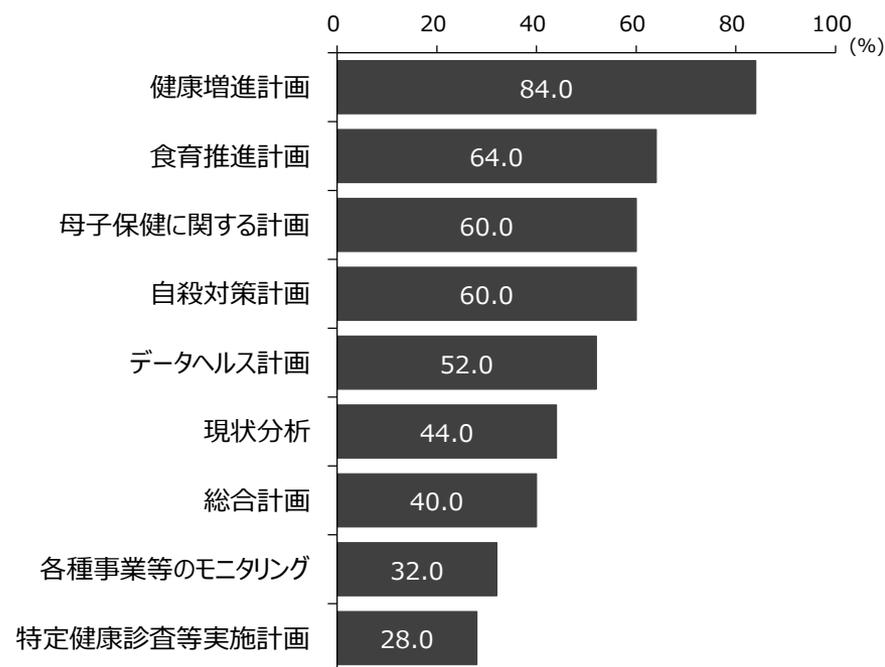
4 保健情報を指標として活用している計画等

【集計対象】市町村保健衛生担当課、医療保険者等

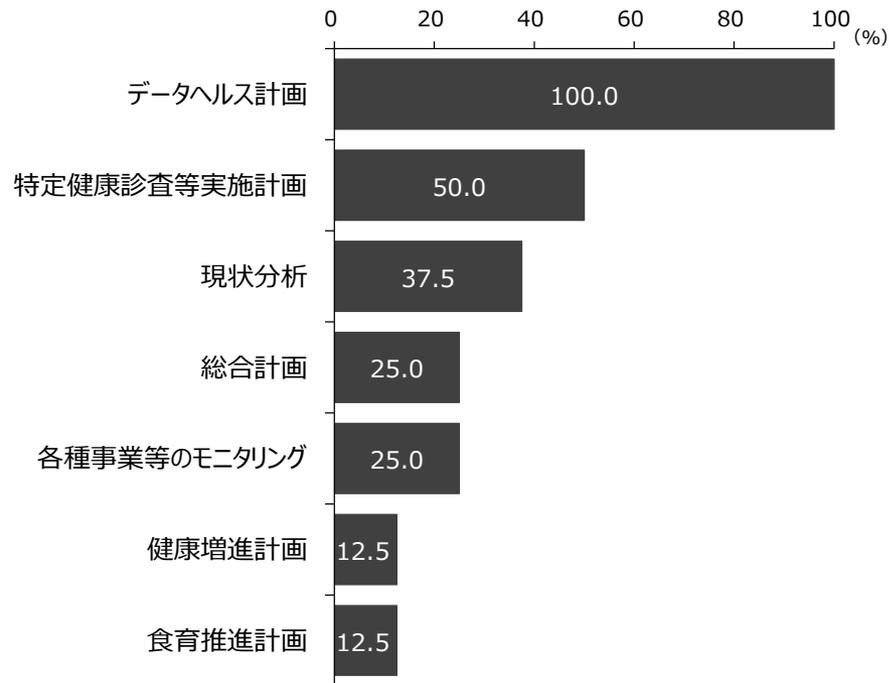
- 保健情報を指標として活用している計画等は、市町村保健衛生担当課では「健康増進計画」が84.0%（21/25市町村）で最も高かった。次いで「食育推進計画」、「母子保健に関する計画」、「自殺対策計画」等であった。
- 医療保険者等では「データヘルス計画」が100.0%で、回答のあった全ての機関で活用されていた。次いで「特定健康診査等実施計画」であった。
- 多岐にわたる分野の計画や現状分析、モニタリング等の指標として、保健情報が活用されていた。

保健情報を指標として活用している計画等（複数回答）

【市町村保健衛生担当課(n=25)】



【医療保険者等(n=8)】



問3-2(1)：指標として活用している計画等について、あてはまる項目すべてに○を入力してください。
 (問3-2で「ある」と回答した所属が回答。)

5 保健情報を活用している主な指標名

【市町村保健衛生担当課】

| 区分 | 指標名 |
|-------|---|
| 人口動態 | <ul style="list-style-type: none"> ・脳血管疾患の年齢調整死亡率 ・心疾患の年齢調整死亡率 ・悪性新生物の年齢調整死亡率 ・標準化死亡比（5年平均） ・自殺死亡率 ・合計特殊出生率 ・出生率、出生数 |
| 妊婦 | <ul style="list-style-type: none"> ・妊婦・妊産婦の喫煙率 ・妊婦の飲酒率 |
| 乳幼児 | <ul style="list-style-type: none"> ・朝食を毎日食べる子どもの割合、朝食欠食率（3歳） ・毎日仕上げ磨きをする親の割合（1.6歳、3歳） ・3歳児の肥満の割合の低下（%） ・ゆったりとした気分で子どもと過ごせる時間がある母親の割合（3・4か月、1歳6か月、3歳） |
| 児童・生徒 | <ul style="list-style-type: none"> ・朝食を毎日食べる子どもの割合、朝食欠食率（小4、中3、高3） ・児童・生徒の肥満傾向児の割合 ・1回30分以上の汗をかく運動を週2回以上、1年以上実施している子の割合 ・食べない食品群がある子どもの割合の減少（%）（小学4年、中学3年、高校3年） ・甘い食べ物等の摂取回数が1日2回以上の子どもの割合の減少（%）（小学4年、中学3年、高校3年） |
| 成人 | <ul style="list-style-type: none"> ・主な項目の標準化該当比 ・メタボリックシンドローム該当者及び予備群の減少 ・運動習慣がある者の割合の増加 ・成人の肥満者の割合 |

【医療保険者等】

| 区分 | 指標名 |
|-------|---|
| 人口動態 | <ul style="list-style-type: none"> ・人口動態統計（全国・県・圏域・市町村） ・脳血管疾患による死亡者数 ・脳血管疾患による死亡率（人口10万対） ・主要死因別標準化死亡比 |
| 児童・生徒 | <ul style="list-style-type: none"> ・生活習慣病予防支援システム（学校保健対象事業領域）集計結果 |
| 成人 | <ul style="list-style-type: none"> ・主な項目の標準化該当比（市町村別） ・メタボリックシンドローム該当者及び予備群の割合の減少 |

【教育関係機関】

| 区分 | 指標名 |
|-------|--|
| 児童・生徒 | <ul style="list-style-type: none"> ・朝食を毎日食べる児童生徒の割合 ・全国と岩手県の肥満傾向児出現率 ・睡眠時間の年次推移 |

※自由記載の内容を一部抜粋

問3-2(2)：活用している指標名を入力してください。（問3-2で「ある」と回答した所属が回答。）

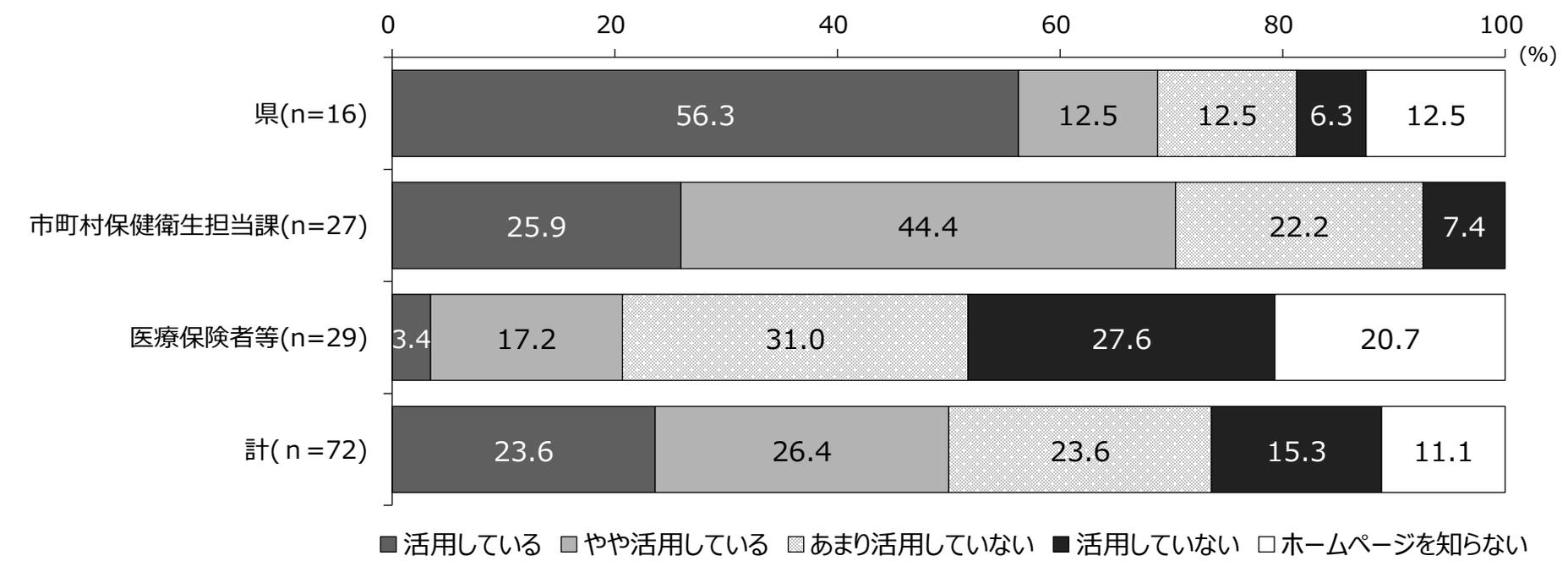
問8(2)：活用していた指標名を入力してください。（問8で「活用していた」又は「やや活用していた」と回答した所属が回答。）※教育関係機関を除く

1 センターホームページ「保健情報の広場」の情報の活用①

【集計対象】 県、市町村保健衛生担当課、医療保険者等

- 全体では「活用している」又は「やや活用している」割合は50.0%、「あまり活用していない」又は「活用していない」は38.9%、「ホームページを知らない」は11.1%であった。
- 対象区分別では、「活用している」又は「やや活用している」割合は、市町村保健衛生担当課70.4%が最も高く、次いで、県68.8%であった。
「ホームページを知らない」割合は、医療保険者等が20.7%で、他の対象区分に比べて高かった。
なお、市町村保健衛生担当課では「ホームページを知らない」と回答した市町村は無かった。
- 対象区分により、ホームページの活用状況及び周知状況に差がみられた。

センターホームページ「保健情報の広場」の情報の活用状況

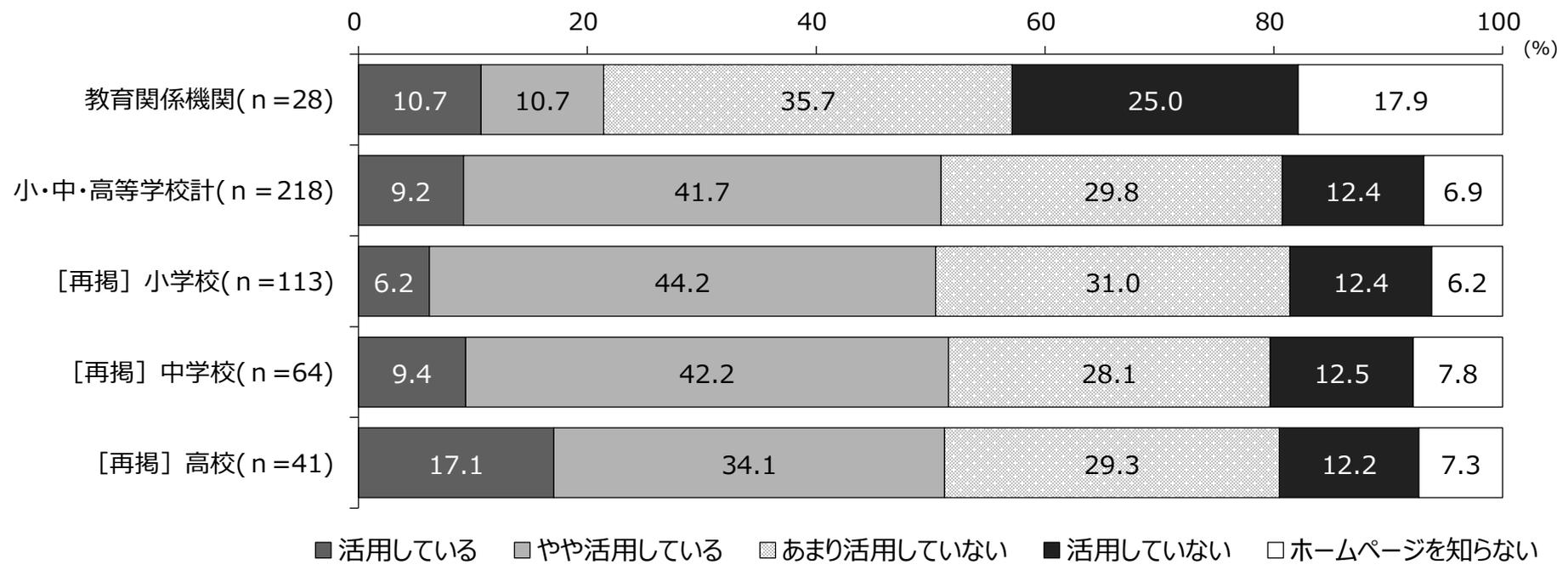


1 センターホームページ「保健情報の広場」の情報の活用②

[集計対象] 教育関係機関、小・中・高等学校

- 「活用している」又は「やや活用している」割合は、教育関係機関は21.4%であった。また、小・中・高等学校全体では50.9%であった。内訳は小・中・高等学校のそれぞれがおよそ5割で、半数の学校で活用されていた。
 なお、高等学校では「活用している」が17.1%で、小学校及び中学校に比べて高かった。
- 一方で「ホームページを知らない」と回答した割合は、教育関係機関17.9%、小・中・高等学校全体では6.9%であった。

センターホームページ「保健情報の広場」の情報の活用状況

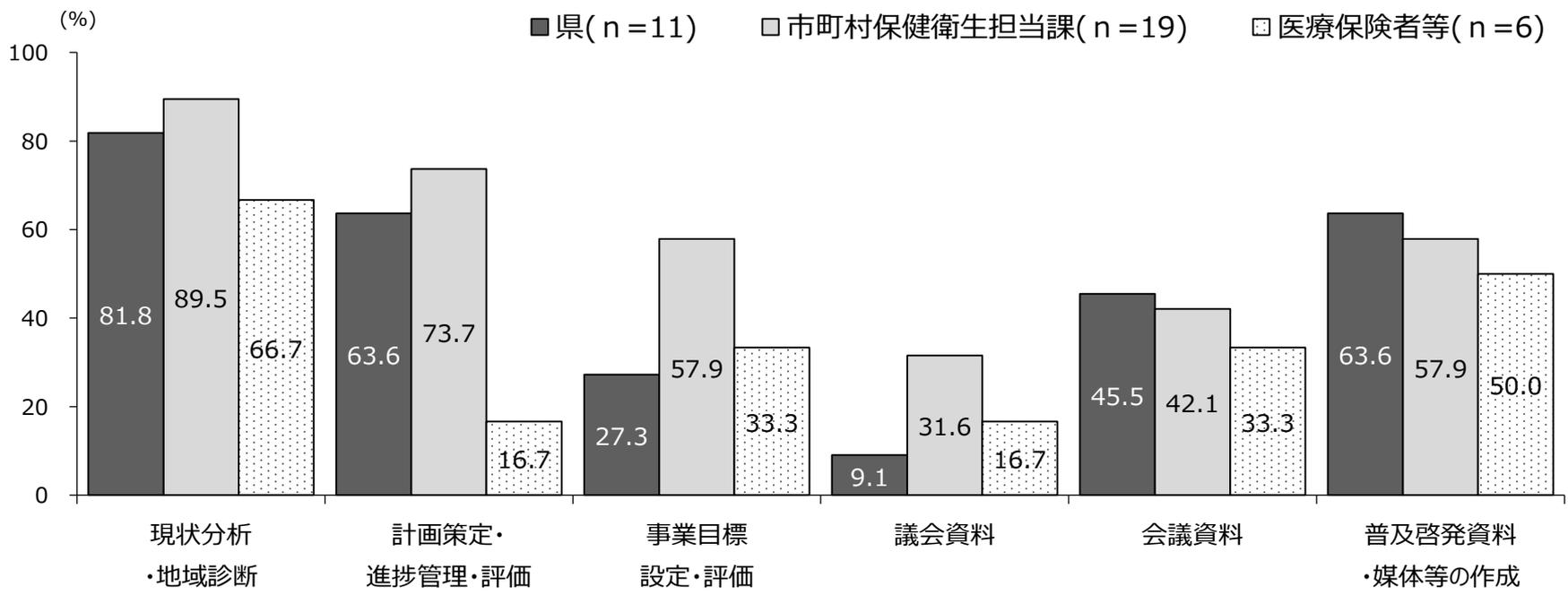


2 センターホームページ「保健情報の広場」の情報を活用している目的

[集計対象] 県、市町村保健衛生担当課、医療保険者等

- 全ての対象区分で「現状分析・地域診断」を目的として活用している割合が最も高かった。
- 「計画策定・進捗管理・評価」は、市町村保健衛生担当課は7割、県は6割を超えていた。また、「普及啓発資料・媒体等の作成」は全ての対象区分で5割を超えていた。対象区分により、情報を活用する目的に差がみられた。

「保健情報の広場」の情報を活用している目的（複数回答）



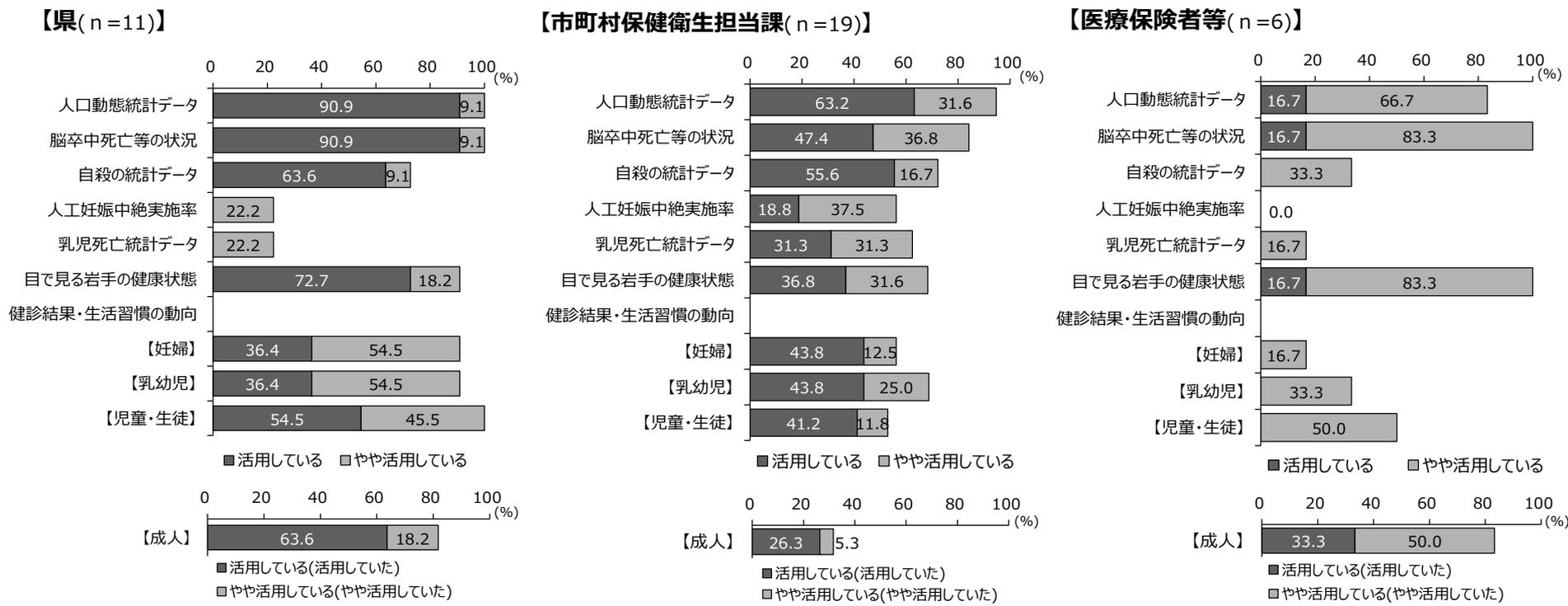
問4(1): 「保健情報の広場」に掲載している情報を活用している目的として、あてはまる項目すべてに○を入力してください。
(問4で「活用している」又は「やや活用している」と回答した所属が回答。)

3 センターホームページ「保健情報の広場」の各ページの情報の活用①

【集計対象】 県、市町村保健衛生担当課、医療保険者等

- 全ての対象区分で「人口動態統計データ」及び「脳卒中死亡等の状況」を活用している割合が8割を超えていた。
- 「健診結果・生活習慣の動向」の各情報を活用している割合は、県では8割を超え、市町村保健衛生担当課では、令和2年度から情報の更新を休止している「成人」の情報を除いて5割を超えていた。
- 対象区分により、活用状況が異なる情報もあり、情報によって活用している割合に差がみられた。

「保健情報の広場」の各ページの情報の活用状況

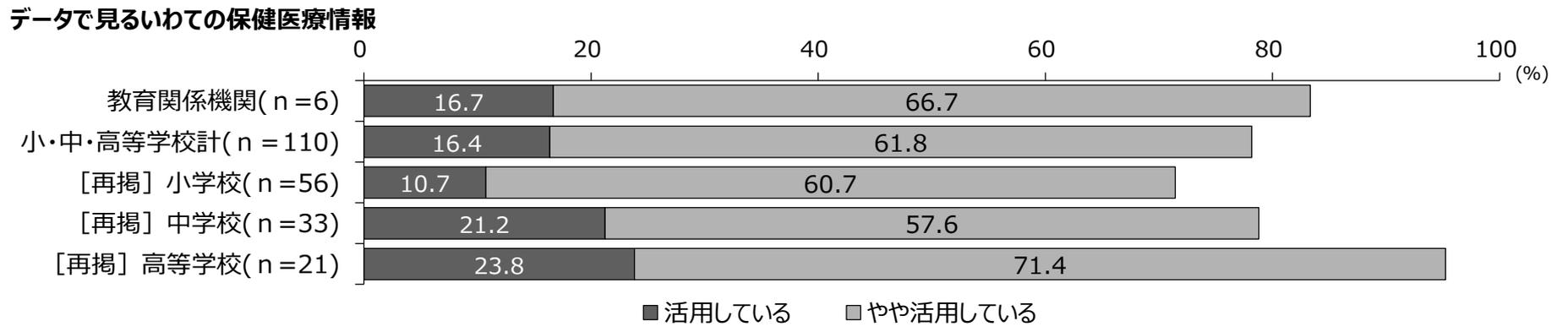
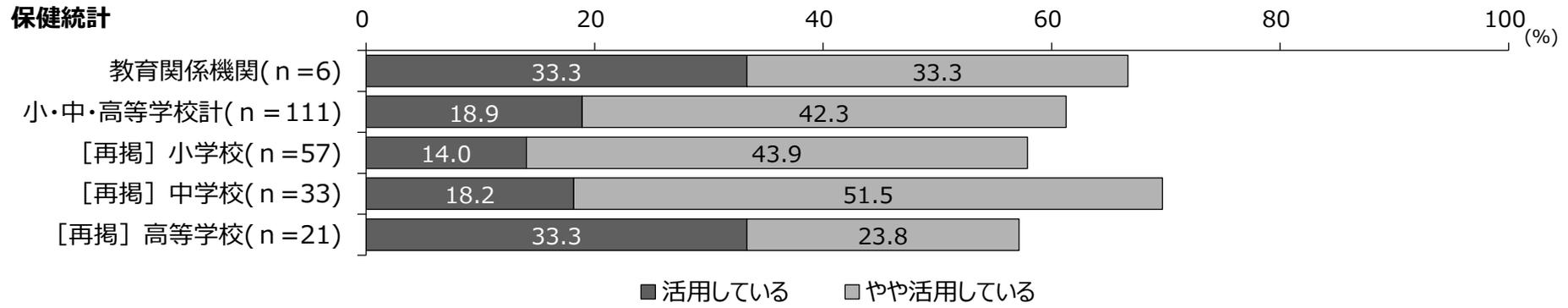


問4(2): 「保健情報の広場」の各ページの情報の活用状況について、次の選択肢からあてはまる項目をそれぞれ1つ選んでください。
(問4で「活用している」又は「やや活用している」と回答した所属が回答。)

3 センターホームページ「保健情報の広場」の各ページの情報の活用②

【集計対象】教育関係機関、小・中・高等学校

- 「保健統計」を「活用している」又は「やや活用している」割合は、教育関係機関66.7%であった。また、小・中・高等学校全体では61.3%で、中学校の69.7%が最も高く、小学校及び高等学校は5割を超えていた。
- 「データで見えるいわての保健医療情報」を「活用している」又は「やや活用している」割合は、教育関係機関83.3%であった。また、小・中・高等学校全体では78.2%で、高等学校の95.2%が最も高く、小学校及び中学校は7割を超えていた。



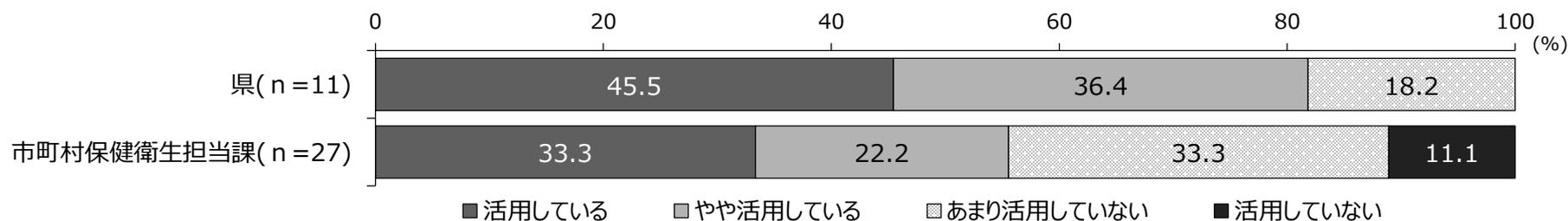
問4(2): 「保健情報の広場」の各ページの情報の活用状況について、次の選択肢からあてはまる項目をそれぞれ1つ選んでください。(問4で「活用している」又は「やや活用している」と回答した所属が回答。)

1 「がん等疾病予防支援システム（市町村対象事業領域）」集計結果の活用

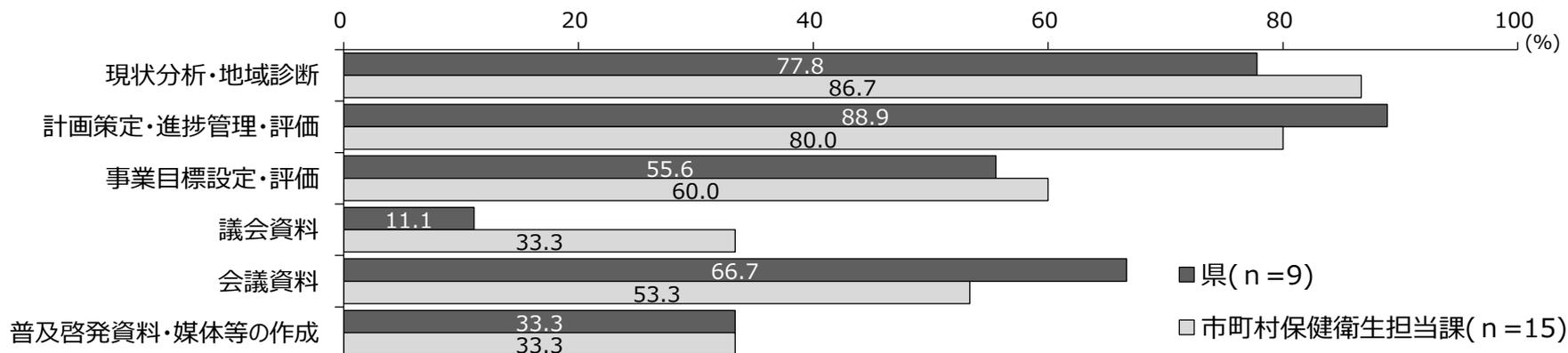
【集計対象】 県、市町村保健衛生担当課

- 集計結果を「活用している」又は「やや活用している」割合は、県81.8%、市町村保健衛生担当課55.6%であった。
- 活用している目的は、県、市町村保健衛生担当課ともに「現状分析・地域診断」、「計画策定・進捗管理・評価」が高く、およそ8割であった。

「がん等疾病予防支援システム（市町村対象事業領域）」集計結果の活用状況



「がん等疾病予防支援システム（市町村対象事業領域）」集計結果を活用している目的（複数回答）



問5：「がん等疾病予防支援システム（市町村対象事業領域）」の集計結果について、あてはまる項目を1つ選んで入力してください。

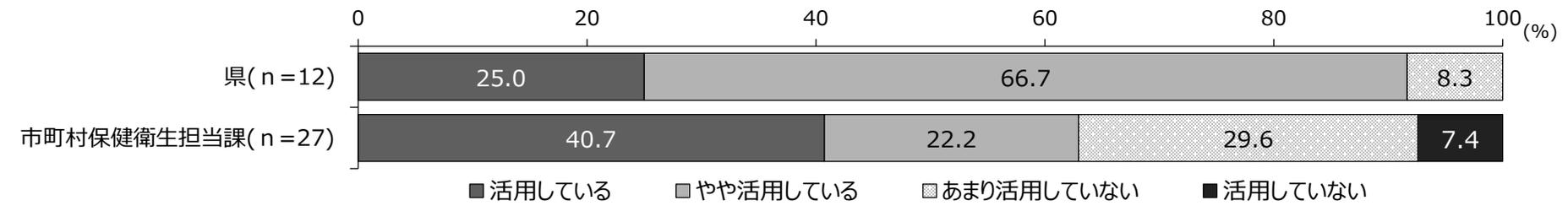
問5(1)：活用している目的として、あてはまる項目すべてに○を入力してください。（問5で「活用している」又は「やや活用している」と回答した所属が回答。） 24

1 「乳幼児健診情報システム<岩手県版>」集計結果の活用

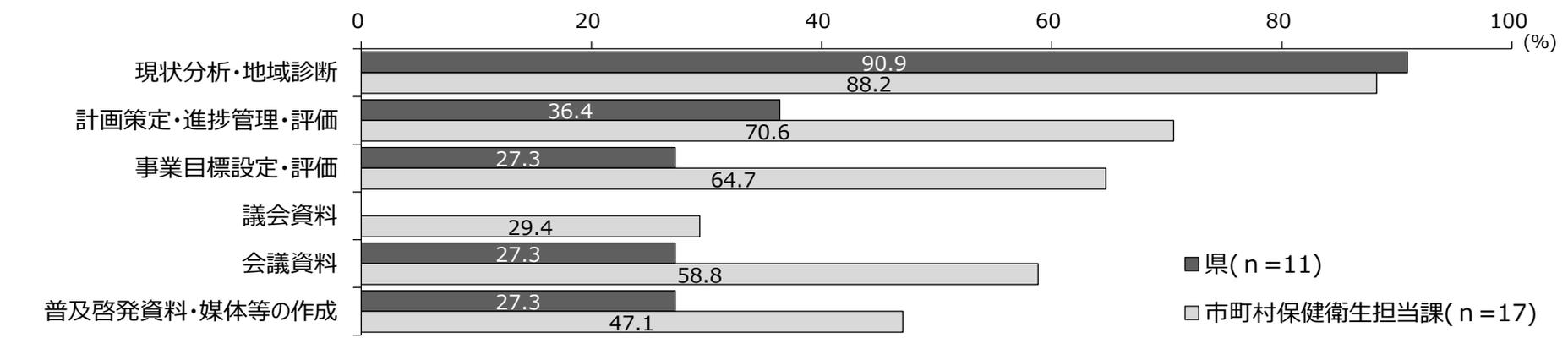
〔集計対象〕 県、市町村保健衛生担当課

- 集計結果を「活用している」又は「やや活用している」割合は、県91.7%、市町村保健衛生担当課63.0%であった。
- 活用している目的は、県、市町村保健衛生担当課ともに「現状分析・地域診断」がおよそ9割で最も高かった。また、市町村保健衛生担当課では「計画策定・進捗管理・評価」がおよそ7割、「事業目標設定・評価」は6割など、様々な目的で活用されていた。

「乳幼児健診情報システム<岩手県版>」集計結果の活用状況



「乳幼児健診情報システム<岩手県版>」集計結果を活用している目的（複数回答）



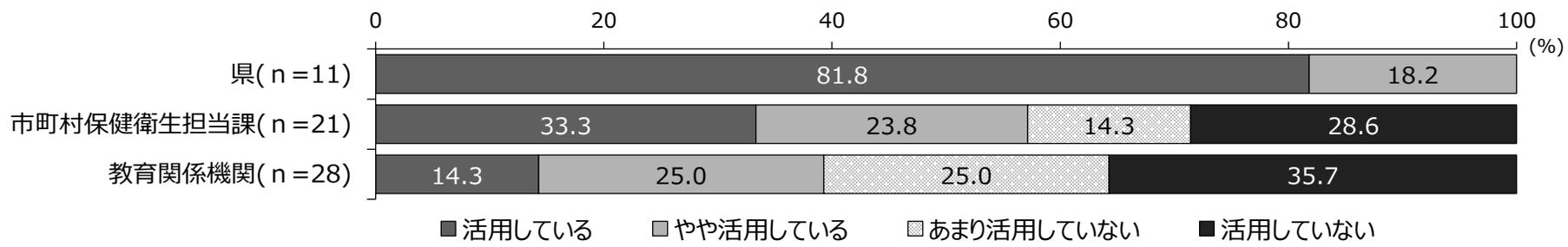
問6：「乳幼児健診情報システム<岩手県版>」の集計結果について、あてはまる項目を1つ選んで入力してください。
 問6(1)：活用している目的として、あてはまる項目すべてに○を入力してください。（問6で「活用している」又は「やや活用している」と回答した所属が回答。） 25

1 「生活習慣アンケート調査」集計結果の活用①

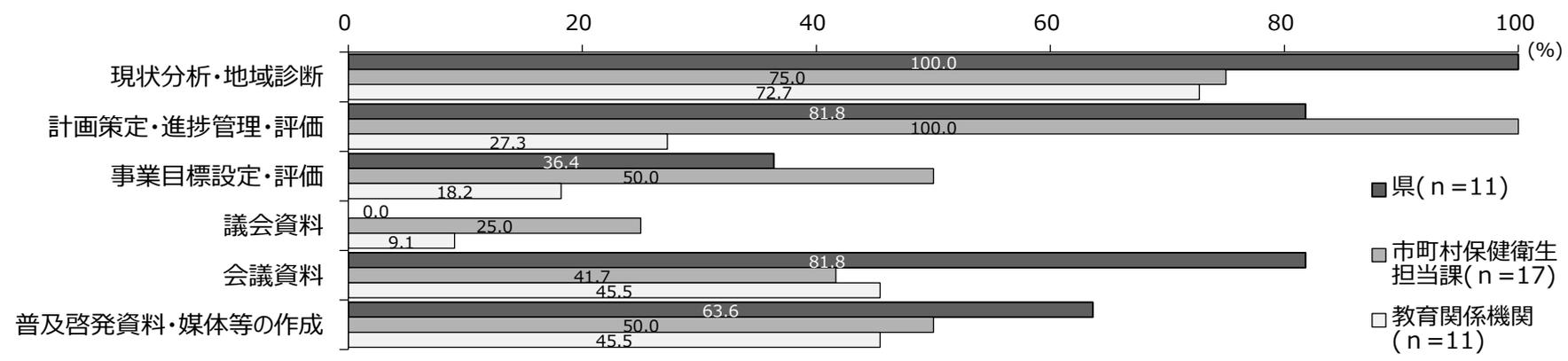
【集計対象】 県、市町村保健衛生担当課、教育関係機関

- 集計結果を「活用している」又は「やや活用している」割合は、県100.0%、市町村保健衛生担当課57.1%、教育関係機関39.3%であった。
- 活用している目的は、全ての対象区分で「現状分析・地域診断」が7割を超え、県は100.0%であった。「計画策定・進捗管理・評価」は、市町村保健衛生担当課100.0%、県81.8%であった。また、「会議資料」や「普及啓発資料・媒体等の作成」など様々な目的で活用されていた。

「生活習慣アンケート調査」集計結果の活用状況



「生活習慣アンケート調査」集計結果を活用している目的 (複数回答)



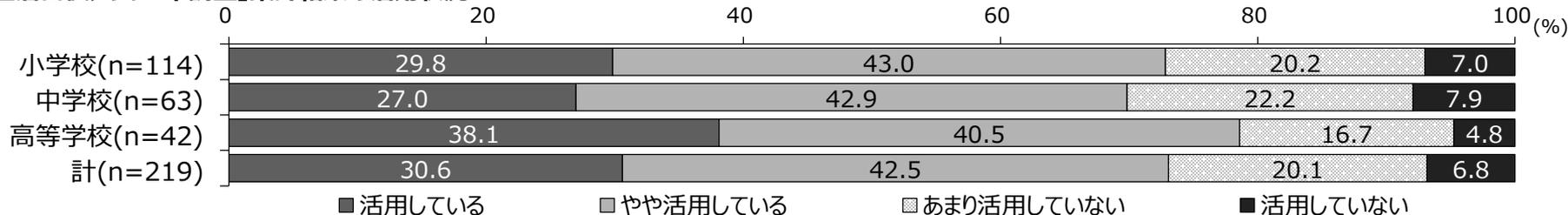
問7：「生活習慣病予防支援システムに伴う生活習慣アンケート調査」の集計結果について、あてはまる項目を1つ選んで入力してください。
 問7(1)：活用している目的として、あてはまる項目すべてに○を入力してください。(問7で「活用している」又は「やや活用している」と回答した所属が回答。) 26

1 「生活習慣アンケート調査」集計結果の活用②

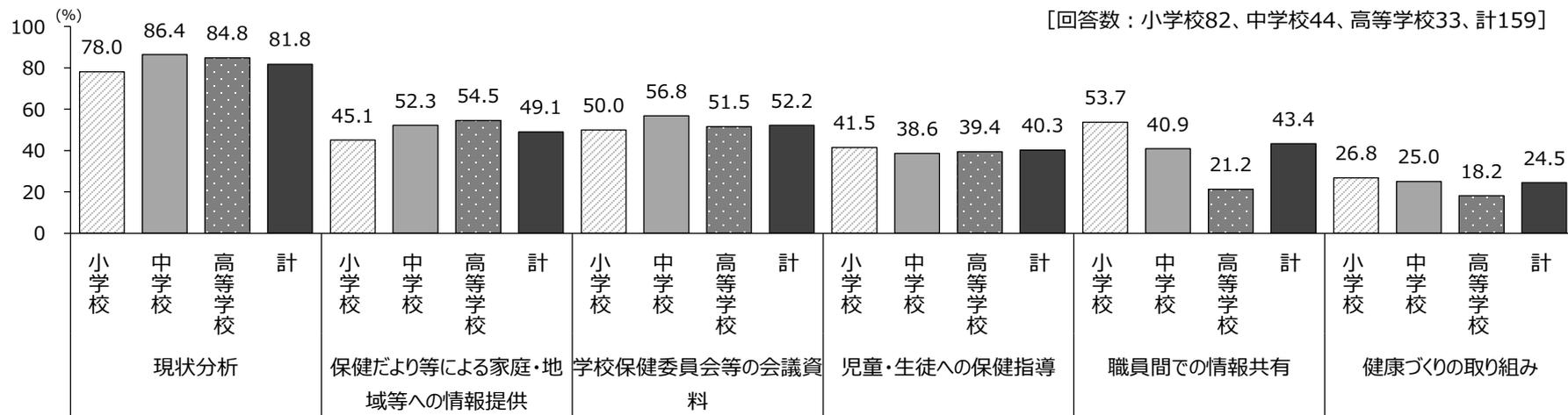
[集計対象] 小・中・高等学校

- 集計結果を「活用している」又は「やや活用している」割合は、全体で73.1%であった。学校区分別では、高等学校78.6%が最も高く、次いで小学校72.8%、中学校69.8%であった。
- 活用している目的は、全ての学校区分で「現状分析」が最も高く、全体では81.8%であった。次いで「学校保健委員会等の会議資料」52.2%、「保健だより等による家庭・地域等への情報提供」49.1%であった。また、「職員間での情報共有」は、小学校がおよそ5割、高等学校では2割と学校区分により差がみられた。

「生活習慣アンケート調査」集計結果の活用状況



「生活習慣アンケート調査」の集計結果を活用している目的(複数回答)



問7：「生活習慣病予防支援システムに伴う生活習慣アンケート調査」の集計結果について、あてはまる項目を1つ選んで入力してください。
 問7(1)：活用している目的として、あてはまる項目すべてに○を入力してください。(問7で「活用している」又は「やや活用している」と回答した所属が回答。) 27

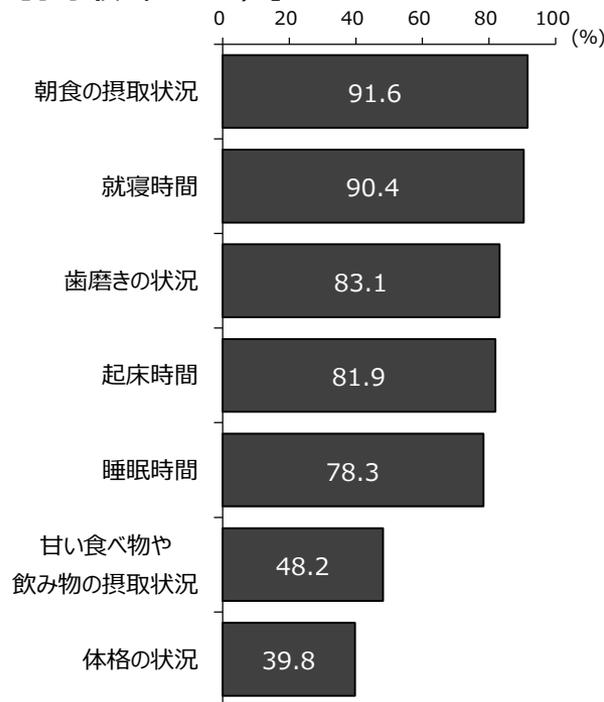
2 「生活習慣アンケート調査」質問項目の活用

【集計対象】小・中・高等学校

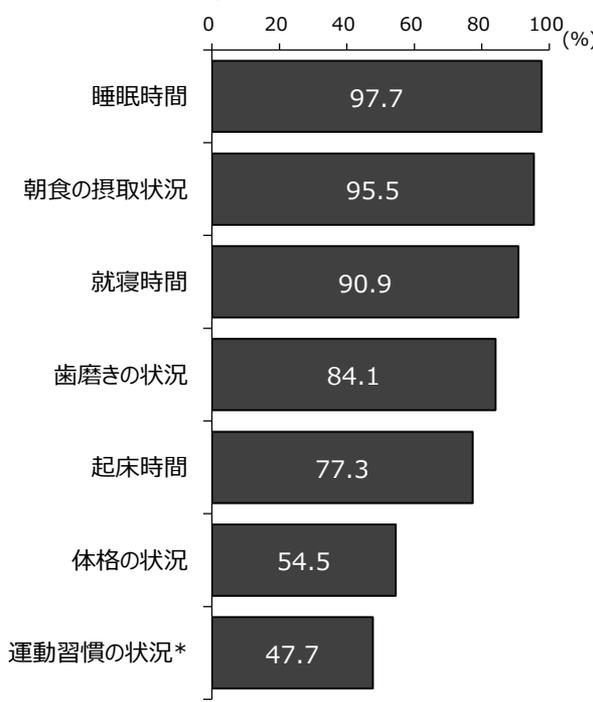
- 各質問項目の活用状況について、活用している割合が高い順に上位7項目を示した。
- 「朝食の摂取状況」を活用している割合は、小学校91.6%、中学校95.5%、高等学校97.0%で、全ての学校区分で9割を超え、小学校及び高等学校では最も高かった。
- 「睡眠時間」を活用している割合は、中学校が97.7%で最も高く、小学校及び高等学校はおよそ8割であった。睡眠に関する3項目（「起床時間」、「就寝時間」、「睡眠時間」）は、全ての学校区分で上位5項目以内に入っていた。

「生活習慣アンケート調査」質問項目別活用割合(複数回答、高率順)

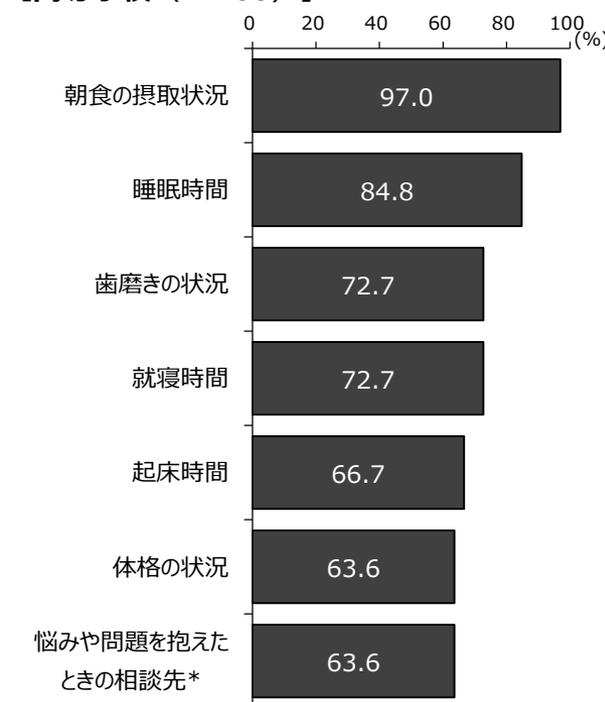
【小学校 (n=83)】



【中学校 (n=44)】



【高等学校 (n=33)】



*調査対象は、中学生・高校生のみ

*調査対象は、中学生・高校生のみ

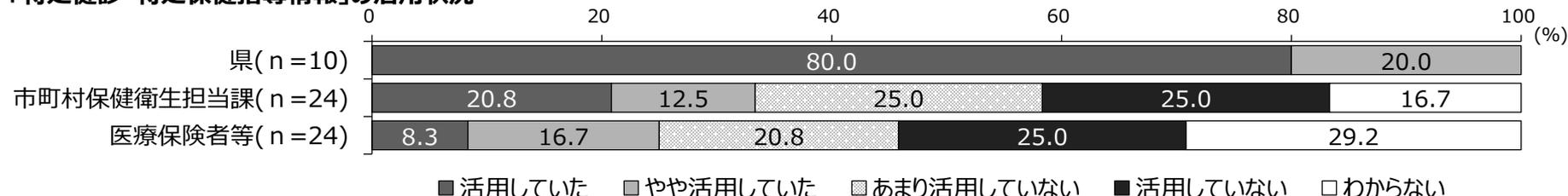
問7：「生活習慣病予防支援システムに伴う生活習慣アンケート調査」の集計結果について、あてはまる項目を1つ選んで入力してください。
 問7(2)：活用している質問項目すべてに○を入力してください。(問7で「活用している」又は「やや活用している」と回答した所属が回答。)

1 特定健診・特定保健指導データの集計結果[※]の活用

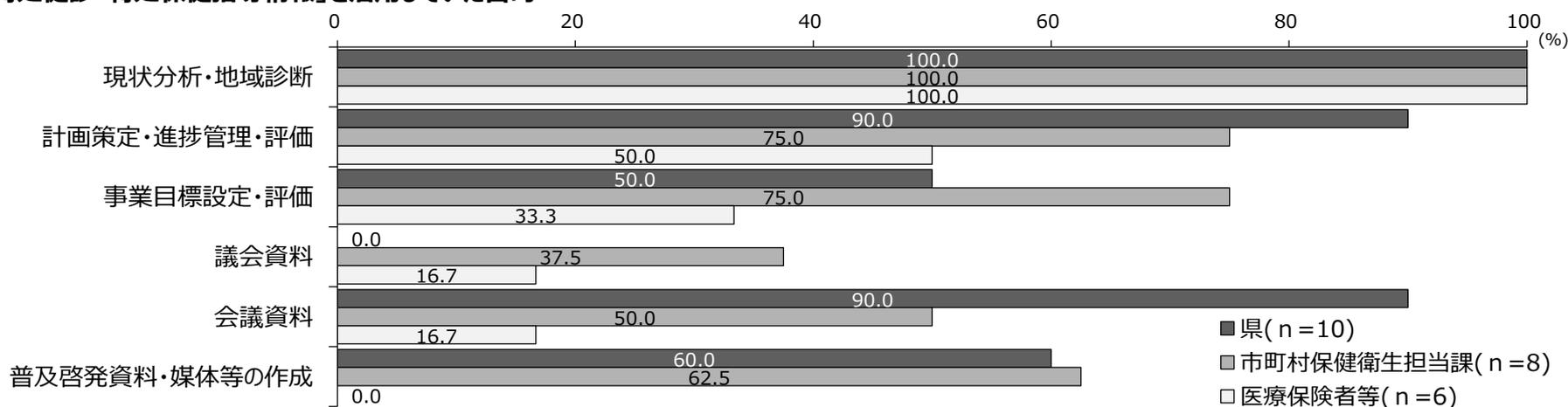
【集計対象】 県、市町村保健衛生担当課、医療保険者等

- 集計結果を「活用していた」又は「やや活用していた」割合は、県100.0%、市町村保健衛生担当課33.3%、医療保険者等25.0%であった。
また、活用していたか「わからない」は、医療保険者等29.2%、市町村保健衛生担当課16.7%であった。
- 活用していた目的は「現状分析・地域診断」が全ての対象区分で最も高く、100.0%であった。

「特定健診・特定保健指導情報」の活用状況



「特定健診・特定保健指導情報」を活用していた目的



※令和2年度以降、データ収集の仕組みの変更に伴い、情報の更新を休止している。

問8：貴所属では、センターが還元していた特定健診・特定保健指導データの集計結果[※]を活用していましたか。

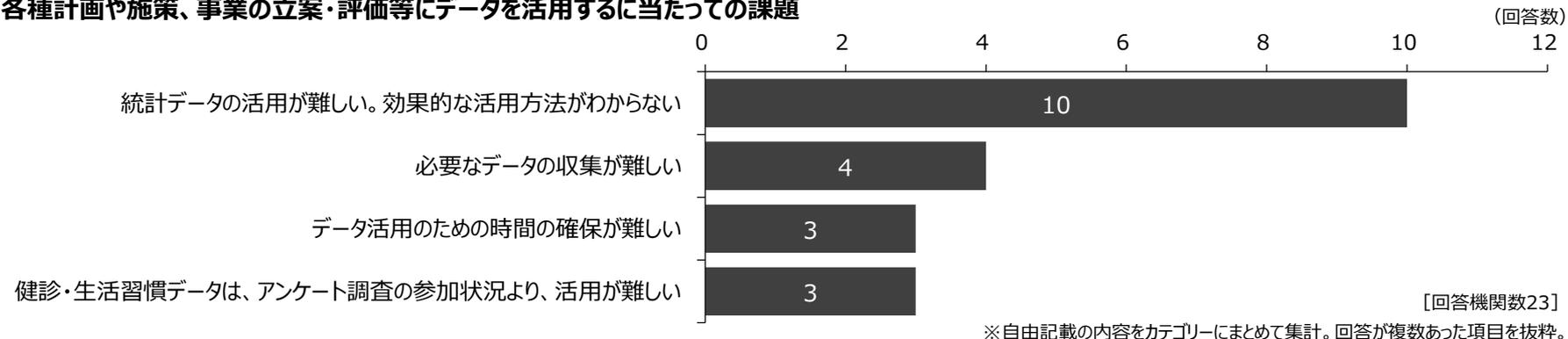
問8(1)：活用していた目的として、あてはまる項目すべてに○を入力してください。（問8で「活用していた」又は「やや活用していた」と回答した所属が回答。）²⁹

1 データ活用の課題

1 各種計画や施策、事業の立案・評価等にデータを活用するに当たっての課題

[集計対象] 県、市町村保健衛生担当課、医療保険者等、教育関係機関

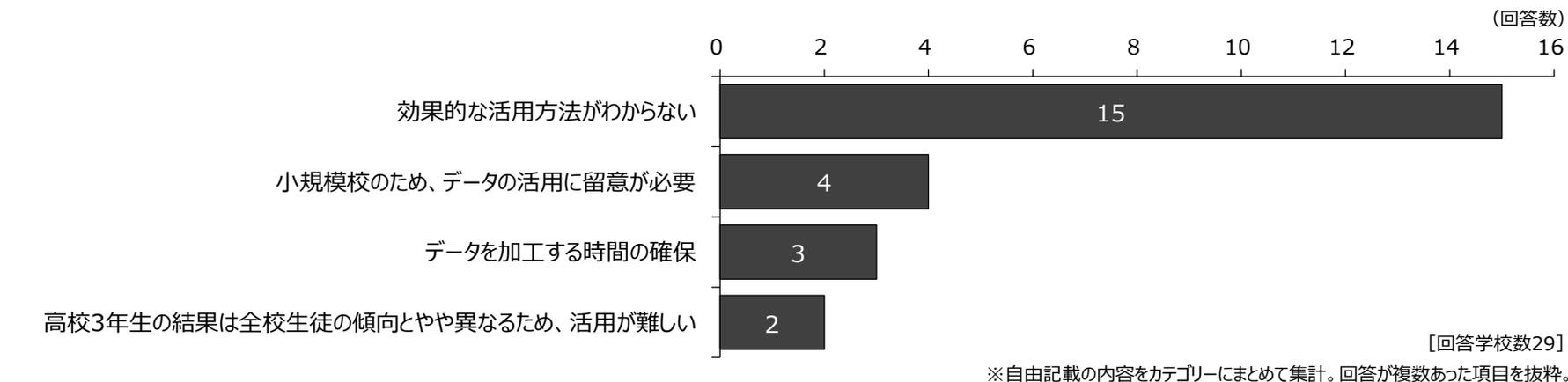
各種計画や施策、事業の立案・評価等にデータを活用するに当たっての課題



2 健康教育や保健指導等の健康づくりに関する取り組みにデータを活用するに当たっての課題

[集計対象] 小・中・高等学校

健康づくりに関する取り組みにデータを活用するに当たっての課題



①問9-1：貴所属において、各種計画や施策、事業の立案・評価等にデータを活用するに当たって、課題と感じていることがございましたら、入力してください。（自由記載）

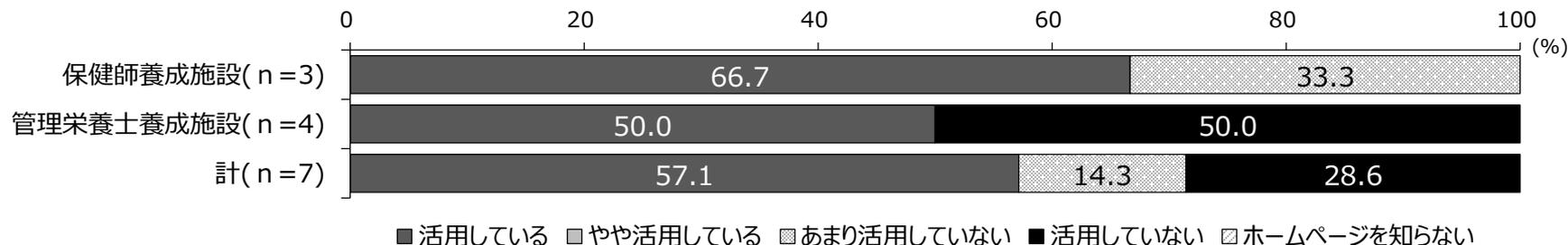
②問9-2：貴所属において、健康教育や保健指導等の健康づくりに関する取組にデータを活用するに当たって、課題と感じていることがございましたら、入力してください。（自由記載）

1 センターホームページ「保健情報の広場」の情報の活用

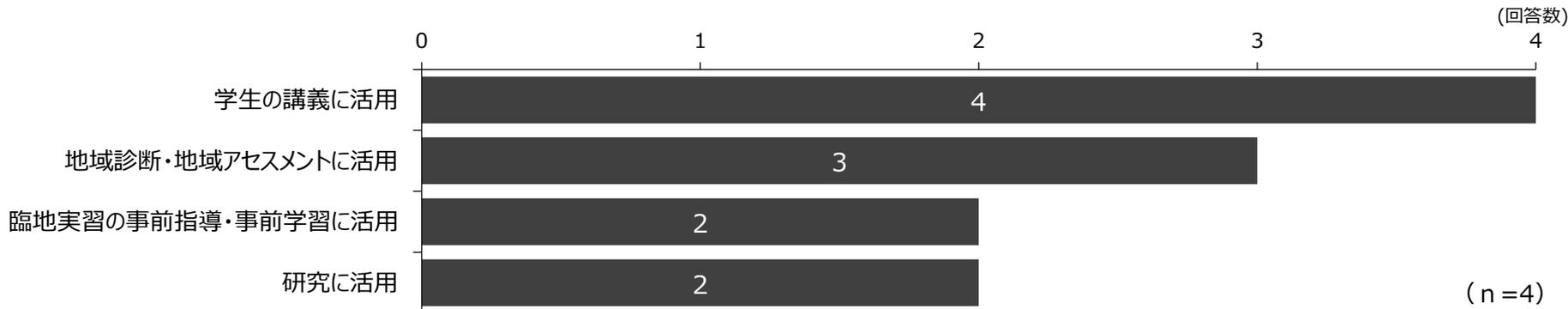
[集計対象] 大学

- センターホームページ「保健情報の広場」の情報を「活用している」割合は全体で57.1%（4/7施設）であった。内訳は、保健師養成施設及び管理栄養士養成施設ともに、それぞれ2施設であった。
- 情報を活用している目的は、4施設全てで「学生の講義に活用」が挙げられ、次いで「地域診断・地域アセスメントに活用」が3施設であった。

「保健情報の広場」の情報の活用状況



「保健情報の広場」の情報を活用している目的(自由記載)



※自由記載の内容をカテゴリーにまとめて集計。回答が複数あった項目を抜粋。

問10：貴所属では「保健情報の広場」の情報を活用していますか。次の選択肢から、あてはまる項目を1つ選んで入力してください。

問10(1)：「保健情報の広場」に掲載している情報を活用している目的について、主な内容を入力してください。（問10で「活用している」又は「やや活用している」と回答した所属が回答。） 31

取り組み事例



センターの保健情報を活用した取り組み事例①

| 対象区分 | 項目 | 取り組みの概要 |
|------------|--------------------|---|
| 県 | 地域の健康課題のモニタリング | <ul style="list-style-type: none"> 健康課題のモニタリングにより、経年変化を確認・評価。 |
| 市町村 | 健康増進計画の策定・評価 | <ul style="list-style-type: none"> 計画の策定・評価に同じ内容のデータを活用。 |
| | データ分析に基づく事業の実施・見直し | <ul style="list-style-type: none"> データ分析に基づく食育推進事業の実施。 |
| | データを活用した普及啓発媒体の作成 | <ul style="list-style-type: none"> 健康づくりや乳幼児健診、離乳食教室等の講話の中でデータを紹介。 保護者向け啓発資料の作成にデータを活用。 |
| 医療 保険者等 | 地域及び他市町村の傾向把握 | <ul style="list-style-type: none"> 地域及び他市町村の傾向を把握。議会資料等のデータとして活用。 |
| | データ分析に基づく事業の実施・見直し | <ul style="list-style-type: none"> データ分析により地域課題を明確化し、高血圧を最優先課題として事業を実施。 |
| | 関係機関との連携体制の構築 | <ul style="list-style-type: none"> 事業実施のための関係機関との連携、研修会等の資料作成に保健情報を活用。 |
| 教育関係 機関 | データ分析に基づく事業の実施・見直し | <ul style="list-style-type: none"> 実施中の啓発活動や今後の事業を検討する際の参考資料として活用。 |
| | 普及啓発媒体の作成 | <ul style="list-style-type: none"> 各学校の実態把握の参考資料として活用。「60（ロクマル）プラスプロジェクト」等の取り組みの普及・推進を実施。 |

※自由記載の内容をカテゴリーにまとめた。

問11：貴所属において、センターの保健情報を活用した取組事例がございましたら、入力してください。（自由記載）

センターの保健情報を活用した取り組み事例②

| 対象区分 | 項目 | 取り組みの概要 |
|------|------------------|--|
| 小学校 | データを活用した保健だよりの作成 | <ul style="list-style-type: none"> アンケート結果を保健だよりに掲載。保護者へ情報発信し、生活習慣の確立を図る。 学年が上がるにつれて睡眠時間が減少していること、睡眠の必要性について周知した。 |
| | 学校保健委員会 | <ul style="list-style-type: none"> 学校保健委員会資料にデータを活用。 県・市・自校のデータを比較する資料を作成し、客観的に課題を把握する。 委員会の資料として「生活習慣アンケートから見るいわてっこの姿」を活用。 自校の児童の健康に関する状況と保健情報を関連させながら、保護者と協議を行う。 小中合同の学校保健委員会で、中学校区内の児童生徒の生活習慣アンケート結果と県の結果を比較した資料を作成。地域の課題を基に、肥満予防やおやつ選び方等の取り組みを実施。 小中合同学校保健委員会で県、小学校、中学校のデータを比較し、自校の傾向を把握し、課題解決に取り組む。 |
| | 職員間での情報共有 | <ul style="list-style-type: none"> データをグラフ化し、児童の実態を職員会議で共有。 |
| | データを活用した保健指導 | <ul style="list-style-type: none"> おやつや甘い食べ物の摂取状況等を基に、肥満指導や歯科指導を実施。 期末面談時に行った、保護者向けの肥満個別指導の根拠資料として活用。 |
| | 児童保健委員会 | <ul style="list-style-type: none"> 生活習慣アンケートの結果から、児童保健委員会の保健朝会で、朝ごはんの摂取状況や就寝・起床時間の現状を発表。「早寝・早起き・朝ごはん」の呼びかけを行った。 |

※自由記載の内容をカテゴリーにまとめた。

センターの保健情報を活用した取り組み事例③

| 対象区分 | 項目 | 取り組みの概要 |
|------|-----------|--|
| 中学校 | 保健だより | <ul style="list-style-type: none"> 県と自校のデータを比較し、保健だよりに掲載。 生活習慣アンケート結果を掲載し、規則正しい生活習慣の普及啓発を実施。 |
| | 学校保健委員会 | <ul style="list-style-type: none"> 生徒の健康状態や生活習慣について情報共有。 県と自校のデータを比較し、情報共有。 |
| | 保健指導 | <ul style="list-style-type: none"> データを活用した歯科指導の実施。 身体測定結果から、早期に肥満予防の取り組みが必要な生徒を対象に、面談を実施。取り組み内容について個別に決定。参考として、県や市の状況（平均値）をお知らせした。 |
| | 職員間での情報共有 | <ul style="list-style-type: none"> 職員会議で生活習慣アンケート結果を職員に周知。職員全体で生徒の実態把握に努める。 |
| 高等学校 | 健康課題の分析 | <ul style="list-style-type: none"> 自校の起床、就寝、睡眠時間の実態を活用し、良質な睡眠をとるための保健教育につなげた。 |
| | 保健講話 | <ul style="list-style-type: none"> 生活習慣病予防についての保健講話（対象：3年生）で、外部講師の資料の中に、自校の生活習慣アンケート結果を組み込んでいただいている。 |
| 大学 | 学生への教育 | <ul style="list-style-type: none"> 保健師の卒後教育や学部生の教育に活用。 |
| | 地域アセスメント | <ul style="list-style-type: none"> 地域看護学実習及び公衆衛生看護学実習地における地域アセスメントにおいて、保健医療情報を基に地域のデータを分析し、健康課題を抽出。更に、公衆衛生看護学実習では、政策・施策・事業化に向けてどのような展開を考えられるか学ぶ機会としている。 |

※自由記載の内容をカテゴリーにまとめた。

- 本調査結果から、県、市町村、医療保険者、学校等の多くの関係機関では、各種計画の策定・評価や施策の立案・評価等に統計データを活用しており、センターの保健情報はその基礎資料として活用されていることが推察された。
- しかし、データを活用した現状分析による課題の明確化や、それを基にした計画の策定・評価に比べ、施策・事業の効率的な実施の検討、モニタリング・進捗管理、施策・事業の見直しは低い傾向がみられた。

より効果的・効率的に施策・事業を実施していくためには、各種データを効果的に活用したPDCAサイクルに沿った施策・事業の展開が必要不可欠である。これらのことから、その取り組みを支援するための保健情報のあり方やデータ活用の支援について検討していく必要があると考えられる。
- 本県の健康課題解決に向けて、本調査からみえてきた課題やニーズ等も含めた保健情報の活用の実態を今後の情報提供に反映させていくことが重要である。

効果的な保健情報の内容や提供方法、周知方法等を検討するとともに、新たな視点からのデータ分析も取り入れながら多角的な情報提供を進め、センターの保健情報をより一層充実させていくことが求められる。

謝 辞



本調査の実施に当たり、御協力をいただきました関係機関の皆様へ心より感謝申し上げます。

効果的な情報還元への推進に向けた
保健情報の活用に関する調査報告書

概要版

令和6年9月

岩手県環境保健研究センター
保健科学部 地域保健グループ

本調査は、令和4～5年度県単研究「地域における健康課題解決に向けた保健情報の効果的活用に向けた基礎的研究」の一環として実施したものである。